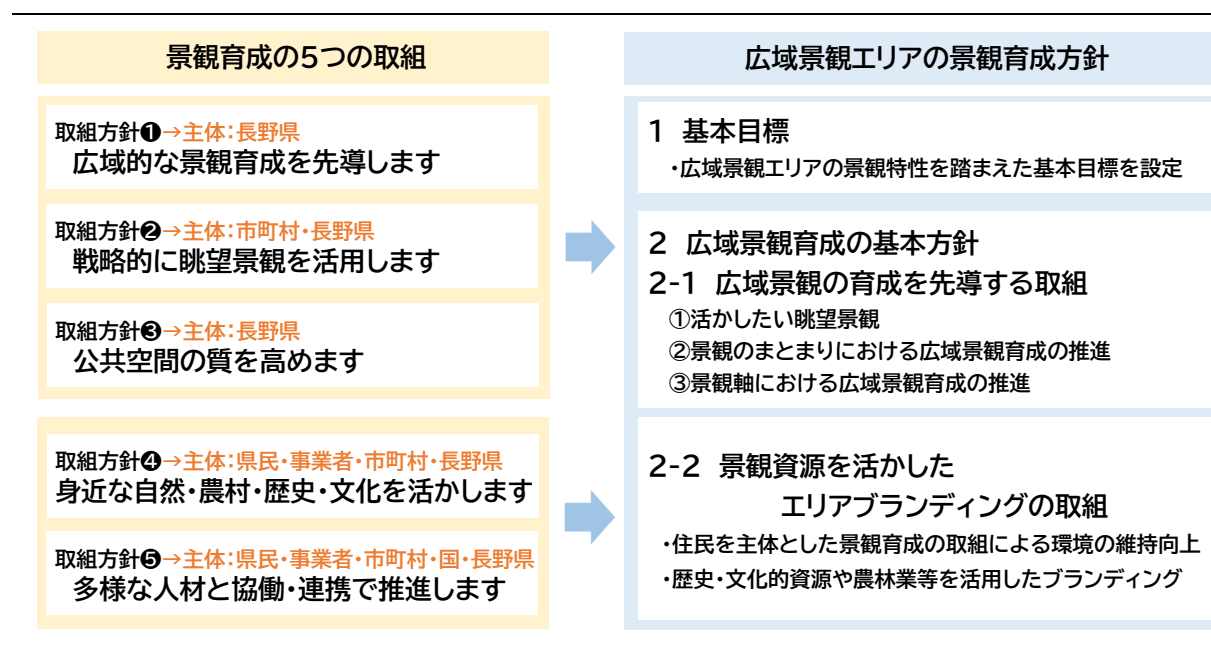


第5章 広域景観エリアの景観育成方針

5-1 広域景観エリアの景観育成方針の作成方法

本章では、第3章及び第4章を踏まえ、今後の景観育成の基本目標及び基本方針を広域景観エリアごとに広域景観エリアの景観育成方針として（以下、「広域景観エリアシート」という）まとめます。

広域景観エリアシートは市町村が景観行政団体に移行済であるかに関わらず、共有すべき景観に係る情報や景観育成の方向性を示すことで、様々な主体が連携しながら効果的で一体性のある景観育成を進めていくことをねらいとして作成します。



1 基本目標

取組方針①に基づき、広域景観エリアの景観特性を踏まえた基本目標を示します。

2 広域景観の育成を先導する取組

取組方針①、②及び③に基づき、活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観のまとまり、景観軸）を示し、広域景観を育成する先導的な取組の方向性を示します。

3 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

取組方針④及び⑤に基づき、住民を主体とした生活環境や自然・田園環境等の維持向上、歴史的資源や農業等を活用したエリアブランディングに関する方向性を示します。

5-2 広域景観の育成を先導する取組について

広域景観の育成を先導する取組である「(1) 活かしたい眺望景観」と、「(2) 広域景観育成重要ゾーン」を、長野県景観条例で定める景観育成重点地域を指定する際の景観類型（次頁参照）を参考にしながら、各広域景観エリアの特性を踏まえ設定し、市町村との連携により景観育成を進めていきます。

なお、眺望景観及び広域景観育成重要ゾーンは、広域景観エリア協議会との調整を踏まえ、景観計画に基づく重点地域の指定を見据えた検討を行っていくことも想定しています。

(1) エリアを代表する活かしたい眺望景観

高台等から山地、田園、都市などの眺望（パノラマ）や、道路等からまち並みやアイストッパへの眺望（ビスタ）を対象とし、広域景観エリアの特徴が感じられ、良好な眺望景観が望める視点場と視対象を「活かしたい眺望景観」とします。

【対応する景観類型】

- ・眺望景観を有する地域

【対象となる視点場】

- ・既に取り組が進められているビューポイント（眺望点、信州ふるさとの見える（丘））を基本とし、広域景観育成重要ゾーン内外を問わずに設定します。

(2) 広域景観育成重要ゾーン

●景観のまとまり：面的なまとまりの視点

【対応する景観類型と対象となるゾーン】

- ・表中の①～⑤の地域のうち、土地利用の状況や景観育成を行う上で拠点性の高い箇所（以下「景観拠点」という。35 P 参照）を選定し、本県を代表する優れた景観として、山地、高原、田園、また都市的な地域で、まちや水、歴史・文化などの拠点を有する地域を「景観のまとまり」として設定します。

●景観軸：線的なつながりの視点

【対応する景観類型と対象となる軸】

- ・表中の①～⑤の地域の中で、県民や来県者が信州らしい景観として高く認知されている要素が集積しており、歴史・文化を有する旧街道や各種景観拠点を結ぶ骨格的な道路、鉄道、河川（沿道・周辺を含む）、また、エリアの広域的なネットワークの形成や景観のまとまりへの主要なアクセス道路や風景街道等を『景観軸』とします。

表 広域景観育成重要ゾーンの対象となる景観類型（長野県景観条例第4条第3項より）

類型区分	空間イメージ
①山地、高原等の自然的景観を有する地域 ● 山地や丘陵地の斜面地の連なりの中で、樹林地、農業生産地及び集落、観光・リゾート施設などで構成される、地域のまとまり	
②道路又は河川に沿った地域 ● 基幹道路、鉄道、旧街道と宿場、河川（湖沼を含む）や河川沿いの景勝地、橋梁等の河川施設、発電施設などで構成される、地域のつながりやまとまり	
③田園景観を有する地域 ● エリアの風景を特徴づけている田園及び集落地や屋敷林、河川、道路などで構成される、地域のつながりやまとまり	
④都市景観を有する地域 ● 主に②・③と一体となった市街地や、今後、新たに拠点的地域としての景観育成が求められる、地域のまとまり	
⑤歴史的景観を有する地域 ● 国宝や伝統的建造物群保存地区などのシンボル、城下町や往時の名残を残す歴史的なまち並みなどの地域のつながりやまとまり	
⑥眺望景観を有する地域 ● 視界の開けた高台等から山並みや田園などの広がりを見晴らし（パノラマ）の眺めや、道路等から沿道のまち並みやアイストップのランドマークへの見通し（ビスタ）の眺め	見晴らし（パノラマ）の眺望景観 見通し（ビスタ）の眺望景観

5-3 活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーンの位置づけ

活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーンの設定にあたっては、各広域景観エリアにおける土地利用の状況を整理し各要素に応じた景観拠点を選定し広域的な景観育成の視点から検討を行います。

以上を踏まえ「活かしたい眺望景観」「景観軸」「景観のまとまり」とのつながりから想定される複数のパターンを示します。

■土地利用の状況

長野県の地形や自然条件、土地利用の特性、法制度の指定実態などにより、次の4つの区分から整理します。

区 分	対 象
 山 岳	・ 自然公園区域
 山麓・山間	・ 保安林又は地域森林計画対象民有林
 田 園	・ 他ゾーン以外の区域
 まち・生活	・ 市街化区域又は用途地域指定区域

■景観育成を行う上で拠点性の高い箇所（景観拠点）

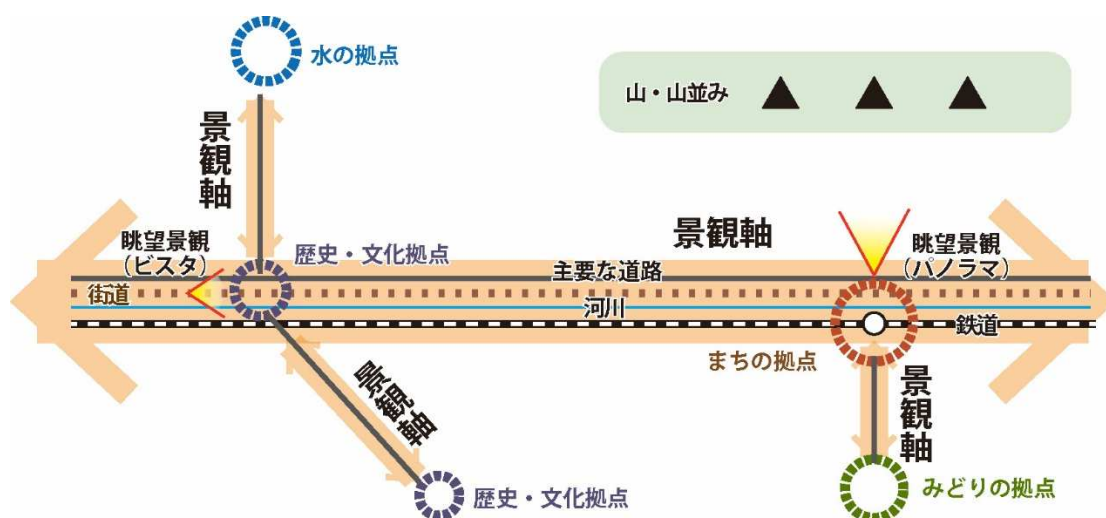
特に優れた水や農業などの自然景観、歴史・文化的な景観、都市や生活の各拠点を形成している地域を景観拠点として設定します。

区 分	対 象
 水	・ 多くの来訪者が訪れている、あるいは、今後、活用が期待される河川（渓谷を含む）や湖沼（ダム湖を含む）
 農・みどり	・ 多くの来訪者が訪れている、あるいは今後、活用が期待される高原、公園、牧場等
 歴史・文化	・ 伝統的建造物群保存地区や重要文化財、文化的景観など、エリアを代表する歴史・文化的な地域
 まち	・ 都市計画区域マスタープランに位置付けられた都市や地域の拠点 ・ 鉄道駅や市役所・役場周辺で、生活サービス機能を有する地域等

1) 広域景観エリアをつなぐ道路や河川等と景観拠点を景観軸で結ぶ広域景観育成の例

- ・広域景観エリアをつなぐ骨格的な道路や街道、河川、鉄道や、歴史的なまち並みを有する歴史・文化拠点を都市機能が集積したまちの拠点を包含した一体的な空間を「景観軸」として設定します。
- ・この景観軸と、広域景観エリア内に点在する水、みどり、歴史・文化の拠点を結ぶ道路を「景観軸」とし、広域景観エリアのネットワーク形成を図ります。
- ・これら景観軸においては、案内サインの統一や道路や河川等の公共施設の質の向上、建築物・工作物や屋外広告物の景観誘導、歴史的なまち並みやアイストップの山地や緑地を守るための「活かしたい眺望景観」の指定等が想定されます。

図 景観軸と活かしたい眺望景観の概念



2) 優れた景観のまとまりとアクセス道路等の景観軸による広域景観育成の例

- ・ 景観拠点とその周辺に広がる地域を「景観のまとまり」として設定し、これにアクセスする骨格的な道路や街道、河川、鉄道等を「景観軸」として設定することで、広域景観エリアの景観構造が形成されます。
- ・ これら景観のまとまりと景観軸においては、案内サインの統一、道路・河川等の公共施設の質の向上、建築物・工作物や屋外広告物の景観誘導、道路や高台からの優れた眺望を守るための「活かしたい眺望景観」の指定等が想定されます。
- ・ なお、これらは、新たな景観育成の取組に加えて、既往の重点地域にもあてはめることができ、広域景観エリア内に点在する水やみどりの拠点を結ぶ道路を「景観軸」とすることで、広域景観エリアの価値を高める取組に発展することが想定されます。

図 景観のまとまりと景観軸、活かしたい眺望景観の概念

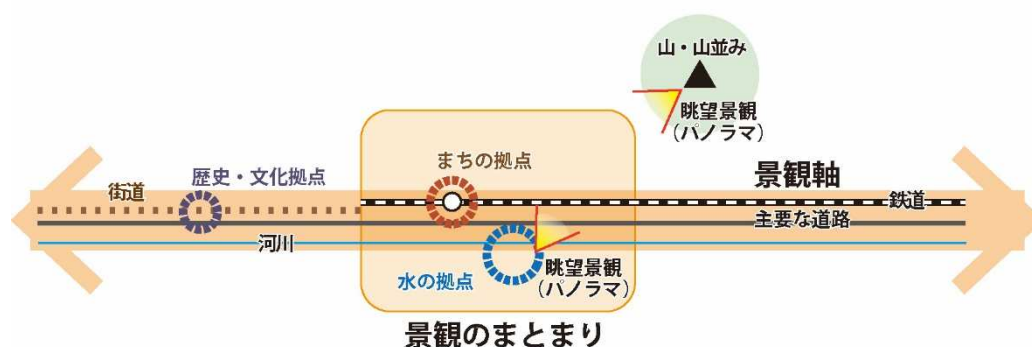
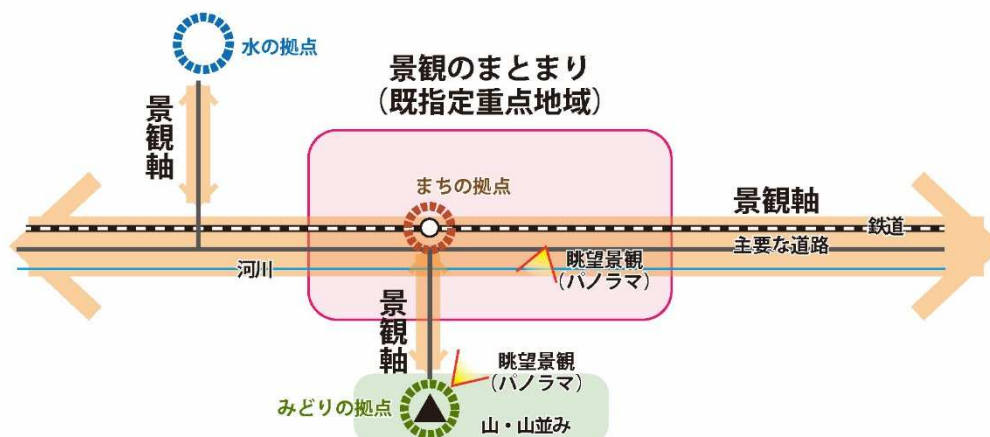


図 景観のまとまり（既指定重点地域）と景観軸、活かしたい眺望景観の概念



5-4 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

広域景観を育成する上では、地域に溢れる景観資源を活用しながら他分野と連携することで、更なる景観的魅力を高めることが重要です。広域景観エリアの景観的価値を高めるため、次の視点から取組の方向性を示します。

1) 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

景観育成住民協定に代表される住民主体の景観育成の取組が地域で行われておりますが、持続的な活動のための取組について方向性を示します。

2) 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

個性的な地域の景観育成のため、各地域に溢れる歴史や文化的資源のほか、農林業といった地域をかたちづくる様々な要素とどのように連携し発展した取組につなげていくのかを示します。

5-5 広域景観エリアシートの構成と内容

広域景観エリアシートは、次の項目により2枚構成としています。

1) 広域景観エリアの景観特性 (p 1) の内容

各広域景観エリアに有する道路や河川、主要な山などの景観特性を写真、参考図等を用いながら広域景観エリアの現況図として示します。

●景観特性等

- ・「地形的な特徴と眺望」「道路・交通（交通景観軸）」「河川・水辺（河川景観軸）」「歴史・文化（歴史・文化的な景観）」「産業の景観」の視点から整理しています。
- ・広域的な景観要素として今後とも守っていききたい主な視対象、大切にしたい特徴を示しています。

●広域景観エリアの現況図

- ・地形（標高）をベースに、道路や鉄道、河川（湖沼を含む）、街道などの基礎情報を表記しています。
- ・主な資源として、主要な山、重要文化財、信州ふるさとの見える丘と、県指定眺望点を示しています。
- ・また、断面図を作図することで、各エリアの空間的な特性を示しています。



2) 広域景観エリアの育成方針（p 2）の内容

広域景観エリアの景観特性を踏まえ、広域景観育成の基本目標及び基本方針を示しています。

●景観育成の基本方針

- ・ 2-1 では、活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観軸、景観のまとまり）を設定し、広域景観育成の方向性を示しています。
- ・ 2-2 では、エリアの景観資源を活かした生活環境の向上や、エリアブランディングの方向性を示しています。

●広域景観エリアの景観育成方針図

- ・ 全エリア共通の景観育成の方向性の目安として、地形や自然条件、土地利用の状況を整理します。
- ・ 景観特性や景観と関連する計画に基づき、広域景観育成を進める上で重要な水、農・みどり、歴史・文化及びまちの景観拠点を整理します。
- ・ 広域景観の育成を先導する活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観のまとまり、景観軸）の位置を示すとともに景観育成のイメージを図で示します。
- ・ 4つの景観育成重点地域（浅間山麓、八ヶ岳山麓、国道147号・148号沿道、高社山麓・千曲川下流域）の当初指定範囲も示します。

2. 木曽広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ① 本エリアの多様な地形が織りなす寛容の床、阿寺渓谷、自然湖等の自然景観、御岳山や中央アルプスへの眺め、御岳山麓に広がる麓田原の景観、旧中山道の宿場町や山間の林業が育んできた歴史・文化の資源の維持・保全・活用を図る
- ② 地域住民の暮らしを豊かにするとともに、居住団体等と連携し、観光や農林業と連携して広域景観としての魅力を高める。本エリアの価値向上や地域の活性化を目指す
- ③ インパウンドを含めた多様な来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しさを育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

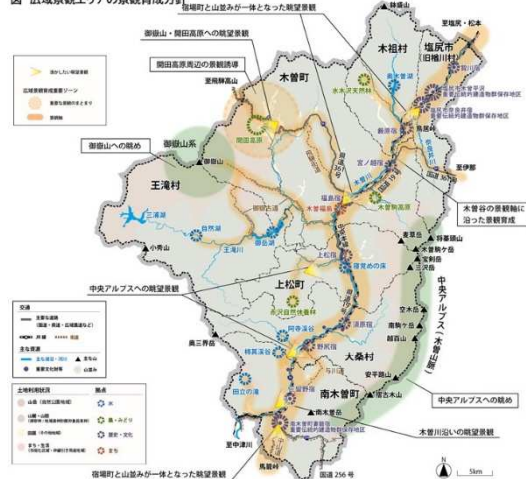
2-1 広域景観の育成を先導する取組

- ① 活かしたい眺望景観
 - ・ 御岳山と山麓の麓田原を望む眺望景観（例：御岳山山麓眺望台、九葉村眺望台等）
 - ・ 木曽谷から中央アルプスを望む眺望景観（例：志路峠眺望台、阿寺橋等）
 - ・ 木曽川沿いの自然を望む眺望景観（例：天白公園眺望点、穂高の床等）
 - ・ 宿場町のまわりと背後の山並みが一帯となった眺望景観（例：奈良井宿、妻籠宿、穂高宿等）
- ② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）
 - 対象地域：開田高原（御岳山麓）周辺
 - ・ 景観に影響を及ぼす開発行為に対する景観に関するルールづくりの検討、既存の景観に関する取組との連携（例：木曽町開田高原景観計画）
 - ・ 麓田原の眺望景観と主要な一帯となった集落・田舎景観、山並み・地形等特徴的な景観の保全・育成
 - ・ 開田高原を望む眺望場の停留空間や案内サインの整備
 - 対象地域：木曽川、JR中央線、国道19号、中山道とその周辺
 - ・ 木曽谷の一帯をある広域景観の育成に向けた建築物等の景観に関するルールづくりの検討（重点地域検討）
 - ・ 宿場ごとの伝統的な建群様式、まち並みの保存・継承
 - ・ 木曽谷の広域交通軸（JR中央線、国道19号、旧中山道）における屋外広告物のルールづくり
 - ・ 木曽路の統一案内サインの維持・保全
 - 対象地域：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川（国道361号、国道20号、26号、473号、飛騨街道、御岳古道、与川道、木曽森林鉄道跡、玉川川等）
 - ・ 自然景観と調和した沿道沿いの景観景観、シーケンス景観の育成
 - ・ 屋外広告物の統一感を持ったルールづくり、インパウンドにも対応した案内サインのデザイン検討
 - ・ 街道沿いや森林鉄道跡に残る歴史的な資源の保全・活用等

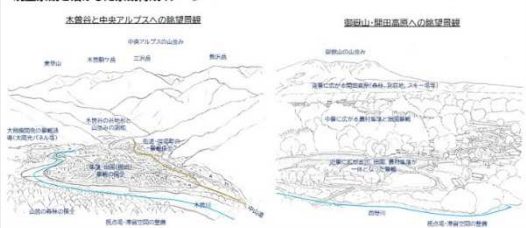
2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

- ① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上
 - ・ 既存生活圏定住地区の協定運営等生活活動の支援と担い手の育成
 - ・ 協定制度を活用した宿場町周辺のまち並み景観育成と住環境の向上（篠原宿、宮ノ宿、須原宿等）
 - ・ 旧中山道沿いに連続する生活圏定住地区の広域的な連携
- ② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング
 - ・ 広域的な協議体を通じた、各町村・地域住民活動の情報交換や協力体制の構築
 - ・ 木曽路に点在する歴史的資源（宿場町、飛騨街道、御岳古道、与川道、木曽森林鉄道跡、玉川川等）の保全と、これら資源を活用したアクティビティの創出やストーリーづくりによる広域的ゾーリングの推進
 - ・ 木曽エリアに受け継がれてきた文化の景観を継承する担い手の育成・支援と新規ブランド開発による地域振興（開田高原周辺の農業景観や木曽馬の飼育風景、木曽山の林業や木曽漆器・ろくろ工等地域産業、木曽湯りや温泉保養等、さらばしに代表される祭り・民俗芸能等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



北佐久広域景観エリアの景観育成方針

小諸市、佐久市、東御市、軽井沢町、御代田町、立科町

1. 北佐久広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- ・浅間山（2,568m）山麓の緩斜面と佐久平に位置し、北に浅間山、南に八ヶ岳を望み、東は荒船山等の秩父山地、西には鹿曲川を挟んで相対する形で広がる八重原台地と御牧原台地等、特徴的な地形を有する。
- ・佐久平と浅間山には見る見られる関係があり、佐久平の田園や千曲川南の高台から浅間山への眺め、浅間山中腹から佐久平への眺めがそれぞれ親しまれている。
- ・小諸市（小諸眺望百選）や御代田町（浅間山八景）では、浅間山等の豊かな自然の認知と新たな魅力発見等を目的とし、独自に眺望点を選定しているほか、飯綱山公園歴史の広場は関東の富士見百景の1つに選定されている。

○道路・交通(交通景觀軸)

- ・ 国道18号、142号、254号、北陸新幹線、しなの鉄道、上信越自動車道等が長野・上田方面と群馬・関東方面を、国道141号やJR小海線が佐久平を経由し、南佐久・小淵沢方面をそれぞれ結んでいる。
- ・ 浅間サンライン（浅間山麓広域農道）や国道254号沿いのコスモス街道等、地域主体の取組により県内外に親しまれる固有の沿道景観が形成されている。

○河川・水辺(河川景觀軸)

- ・ 甲武信ヶ岳を源とする千曲川は、佐久平を南から北に縦断した後、小諸より西に流れる。大小の支流と相まって、豊かな田園景観や溪谷等の潤いのある水辺景観を形成している。また、佐久鯉や豊富な地下水と良質米を利用した多くの造り酒屋等水の豊かさが支える固有の生業が営まれている。
- ・ 白樺湖や女神湖等の蓼科高原エリアや御膳水を水源とする雲場池、龍神伝説の伝わる大沼の池の湧水等エリア各地で湧水やため池等が潤いある景観を形成している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- ・星型稜堡をもつ洋式城郭である龍岡城五稜郭と城下町より低い位置にあるため通称「穴城」と呼ばれる小諸城のユニークな城址が2つあり、多くの市民や来訪者に親しまれる歴史的な景観を留めている。
- ・中山道と北国街道の2本の主要街道が通り、旧中山道追分宿・小田井宿・茂田井間の宿、北国街道小諸宿・海野宿等、複数の宿場が形成されている。東御市海野宿は昭和62年4月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、小諸市では歴史的まち並みの保全・活用に取り組んでいる。

○産業の景観

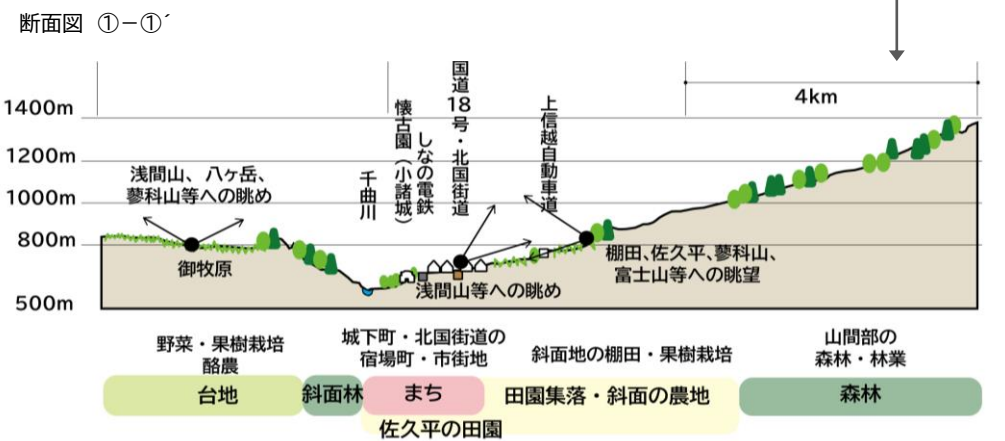
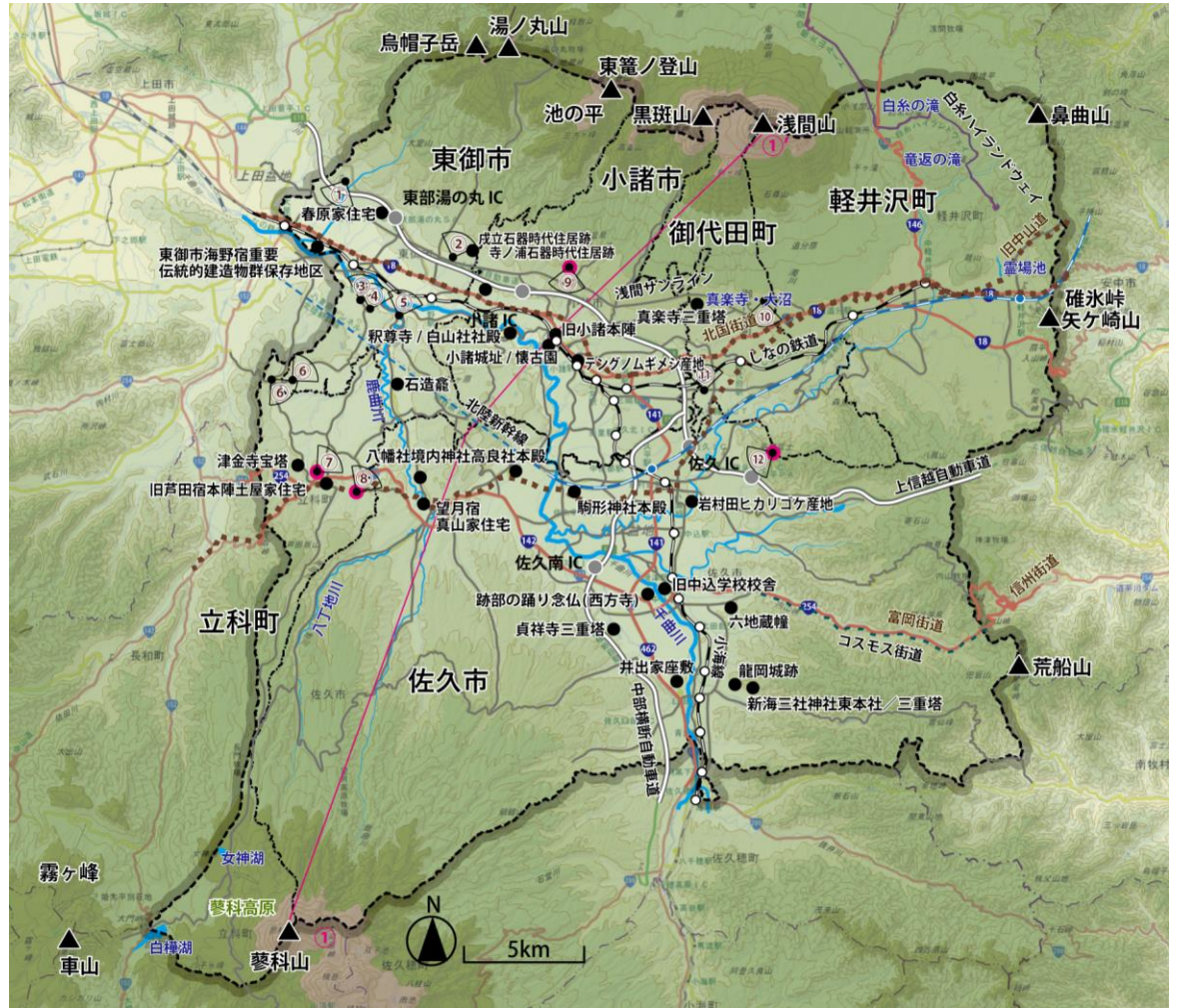
- ・浅間山山麓では高原野菜を中心とした畑地、傾斜地を生かした棚田が見られ、千曲川の段丘斜面上の平地や佐久平には水田を中心とした農地が広がり、集落や山並みと相まって美しい田園景観が形成されている。
- ・千曲川ワインバレーとしてワイナリーの集積、広がりある田園でつくられる五郎兵衛米のブランディング、地元産の酒米での酒造り等、特産品の生産地と産業振興が結びついた取組も多く展開されている。
- ・軽井沢町や御代田町の山麓は、樹林に囲まれた山地や高原リゾート地が形成されている

大切にしたい特徴

佐久平から望む浅間山／千曲川沿いの市街地と河岸段丘／広域交通軸である国道や鉄道からの車窓の景観／佐久平に広がる水田／2つの城郭や旧中山道と北国街道沿いに形成された宿場町・歴史的景観／浅間山麓に広がる棚田・田園集落／蓼科山、白樺湖、女神湖等多くの人々が訪れる自然環境高原景観／別荘地の緑豊かな環境、国有林

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・浅間山
- ・千曲川
- ・佐久平周辺の山岳景観や自然景観
(田園、湯ノ丸山、烏帽子岳等)
- ・浅間山山麓の果樹等の栽培風景
- ・鉄道(しなの鉄道、JR小海線)



北国街道・小諸宿の町並み(小諸市)



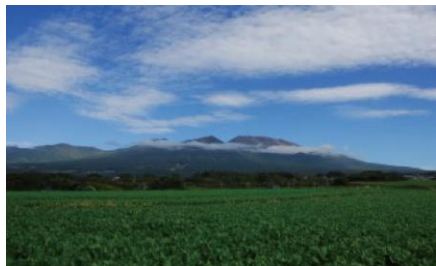
奥に浅間山を望む五郎兵衛新田の景観
(佐久市)



北国街道・海野宿の町並み(東御市)



雲場池(軽井沢町)



浅間山に抱かれた高原野菜の産地
(御代田町)



白樺湖(立科町・茅野市)

2. 北佐久広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ・ 見る見られる関係にある佐久平と浅間山の眺望景觀を、景觀の基調を成す田園風景等生業の風景と一体的に守り育てる。
- ・ 街道筋のまち並み、歴史的資源を良好に保全・創出するとともに、国道や広域農道（浅間サンライン）等の広域交通軸は、軸としての魅力を高める。
- ・ 別荘地等特色ある住環境、浅間山麓の棚田や果樹栽培の風景、佐久平の田園風景等、市町村を超えて一体的な特色を有する場所を保全することで、エリア固有のまとまりのある景觀を形成する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 佐久平に広がる田園から浅間山、蓼科山への眺め（例：五郎兵衛新田）
- ・ 千曲川南の高台や斜面地から浅間山・千曲川を一体的に望む眺め（例：八重原台地・御牧原台地）
- ・ 浅間山中腹から佐久平への眺め（例：稲荷神社鳥居、小諸市菱野の棚田）
- ・ 国道や広域農道、鉄道等の交通軸から連続的に望む景観（例：国道18号、142号、254号、浅間サンライン）

②景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

②-1 浅間山麓景観育成重点地域における広域景観の育成

●対象地域:浅間山麓景観育成重点地域(当初指定地域)

- ・ 県と市町村（景観行政団体、未移行自治体）間での方向性の共有、景観形成基準の調整
- ・ 山麓の緩斜面に展開する果樹栽培や棚田の風景、樹林地に囲まれた別荘地等の保全・活用
- ・ 広域農道（浅間サンライン）や市町村の浅間山を望む眺望点等の滞留空間や案内サイン整備

②-2 佐久平と周囲の山並みとが一体となった拡がりある広域景観の育成

●対象地域:佐久平の一帯

- ・ 佐久平を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、眺望支障物の撤去、夜景等の保全
- ・ 市町村を超えて一体的な特色を有する景観の育成（市町村境の大規模建築物・工作物等の誘導）
- ・ 佐久平固有の生業の風景を活かした産業とも連携した景観育成の推進

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:国道18号、国道141号、国道142号、国道254号、高速道路(上信越道)、新幹線等

- ・ 街道筋や千曲川、広域交通等、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導（エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備、建築物や屋外広告物のルールづくり）
- ・ 特に眺望の美しい区間や眺望スポットの整備、前景となる田園景観の保全・育成
- ・ 中部横断自動車道の延伸により、広域交通を軸とした景観育成の取組検討（南佐久広域景観エリアとの連携）
- ・ 高速道路や新幹線の沿道・沿線における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

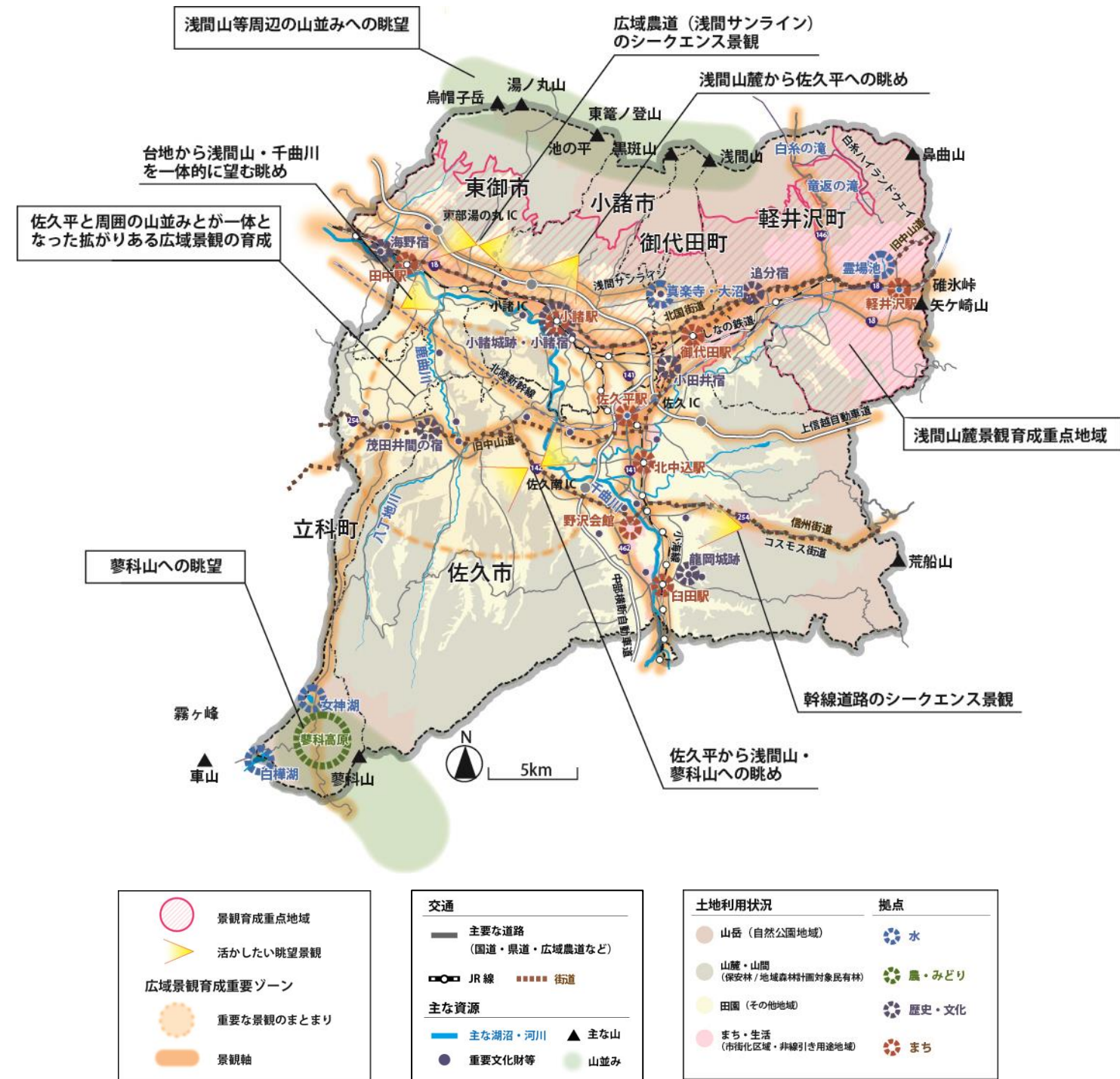
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 別荘地等の特色ある住宅地や五郎兵衛米（ブランド米）の生産地である田園と集落地等、固有性の高いエリアの景観誘導、歴史文化等地域固有の景観の保全・創造に使われてきた既存の住民協定活動の支援、担い手育成
- ・ 住民主体での沿道景観形成や文化財・まち並み保全の動きとの連携や支援

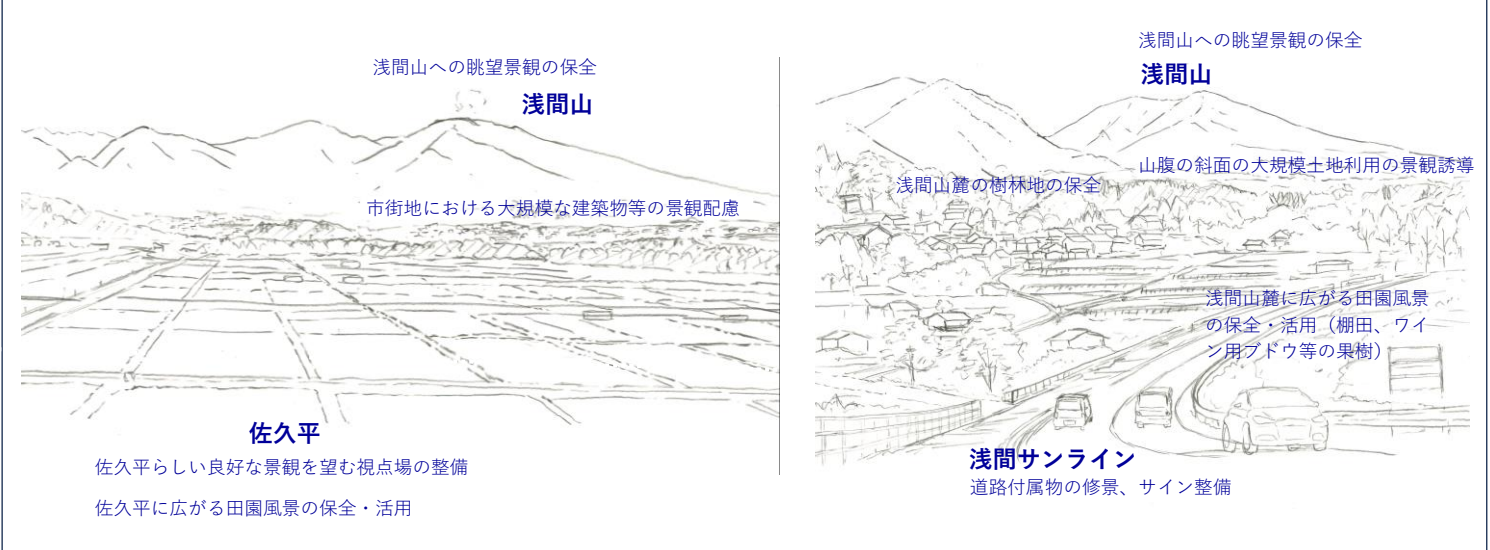
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- ・ 佐久地域（南佐久広域景観エリアとの連携）で取り組んでいる周遊ルートづくりや、宇宙・星空をテーマとしたツアーと連携した取組（景観学習等）
- ・ 既存の取組（千曲川ワインバレー）等特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討（ワイン用ブドウとワイナリー、酒米と酒蔵、ブランド米等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



南佐久広域景観エリアの景観育成方針

小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村

1. 南佐久広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 東に八ヶ岳・蓼科山、西に関東山地(秩父山地)等山々に囲まれたエリアで、北部の佐久平から連なる千曲川沿い等の平地(台地・丘陵地)も標高約1000mを超え、山裾の高原地の景観を有する。
- 野辺山高原は高地で見晴らしが良く低湿、山に囲まれ光害が少ない等から、天文学者が選ぶ「日本で一番綺麗な星空ベスト3」に選定されている。
- エリア南部の高台等からは八ヶ岳への眺めが、エリア北部では八ヶ岳と浅間山の双方の眺めがそれぞれ得られる。また、県境付近の山頂や峠からは北アルプス、富士山、群馬県の山並み等、エリアを超えた眺めが楽しめる。

○道路・交通(交通景観軸)

- 国道141号とJR小海線が南北を、国道299号及び国道462号が東西を貫き、エリアの骨格道路となっている。
- 蓼科高原から八千穂高原を通る国道299号は美しい景観からドイツ・メルヘン街道に因んでメルヘン街道と呼称される。
- 中部横断自動車道が佐久小諸JCTより八千穂高原ICまで整備され、今後長坂JCTまで延伸される計画である。

○河川・水辺(河川景観軸)

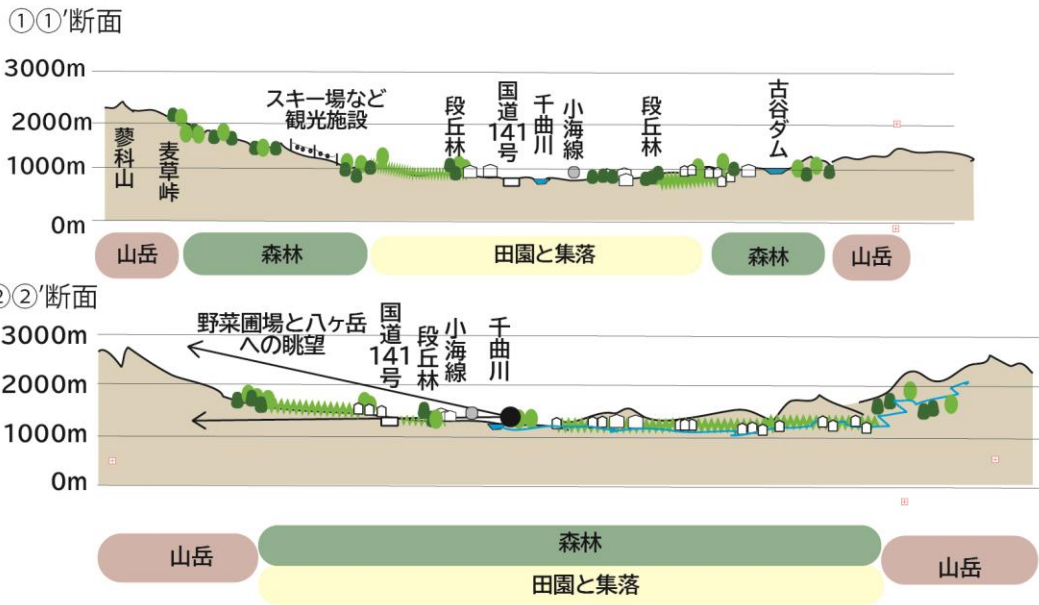
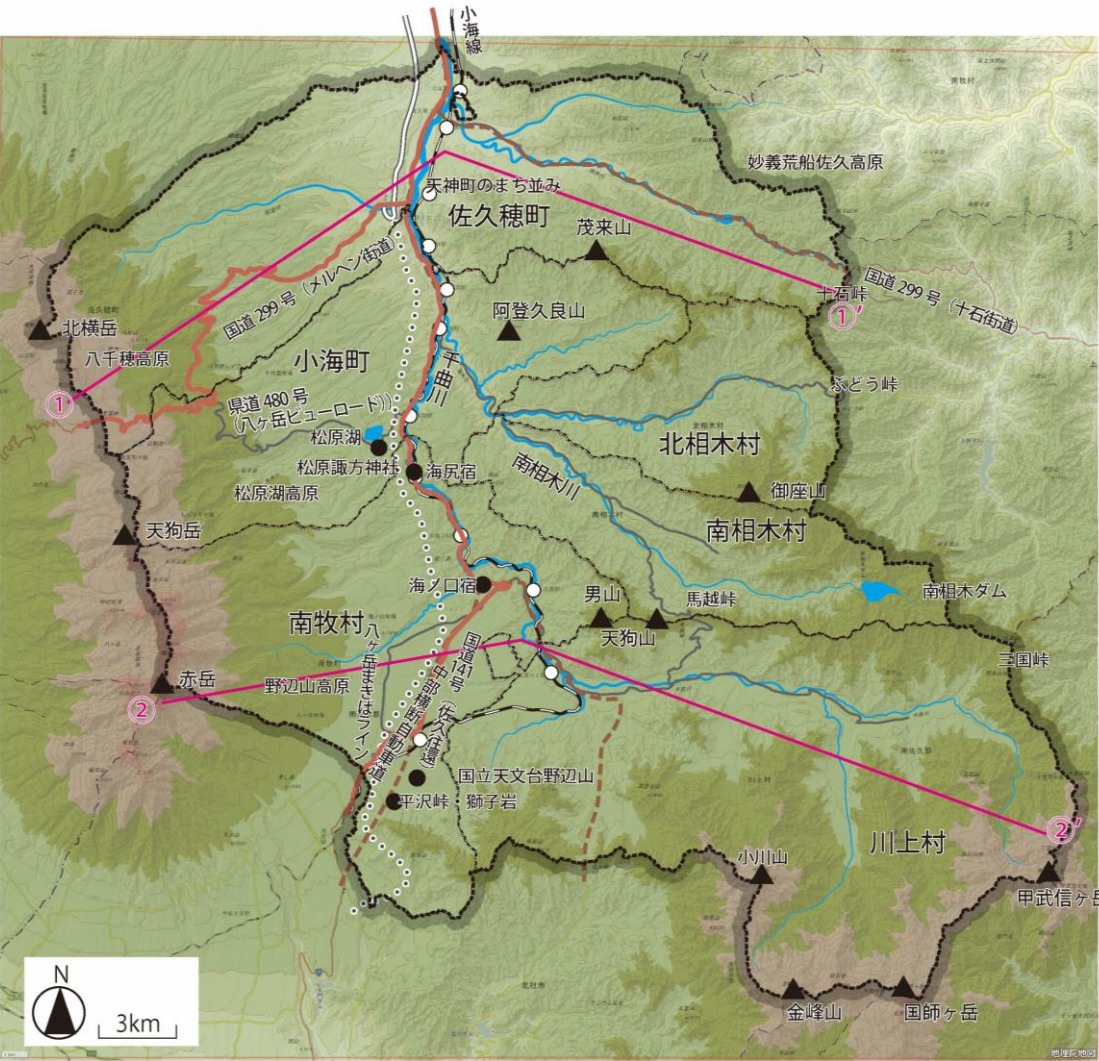
- 甲武信ヶ岳を水源とする千曲川は川上村内を東西に流れ、信濃川上駅付近より小海線や国道141号と並行してエリア中央部を東西からの支流を集めながら流れ、各町村の中心部を結んでいる。
- 支流は急峻な箇所も多く、各所に滝や溪谷が形成され、名勝地として認知されているものも見られる。
- 八ヶ岳の水蒸気爆発による崩壊で生まれた松原湖をはじめ、中小の湖沼群が点在している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- エリア内には、複数の社寺や獅子舞等の民族芸能が見られるほか、近世以降に整備された佐久往還(佐久甲州街道・中山道村田宿～甲州街道韭崎宿)の複数の宿場が往時の名残を留めている。

○産業の景観

- 高地を利用したレタス、キャベツ、白菜等の栽培が盛んであり、大規模な耕作地の景観が見られる。
- 国道299号(メルヘン街道)や県道480号(八ヶ岳ビューロード)、八ヶ岳まきばライン周辺には別荘地やスキー場、キャンプ場、美術館等の観光施設が多く分布している。



松原湖と八ヶ岳(小海町)



高原野菜圃場と八ヶ岳への眺め(川上村)



野辺山高原の高原野菜(南牧村)



天狗山(南相木村)



御座山麓(北相木村)



山並みと耕作風景の拡がり(佐久穂町)

2. 南佐久広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- 地区の中央を縦断する千曲川、小海線、中部横断自動車道を広域的な自然・交通軸とし景観育成を進め、移動の軸としての魅力を高めながら、エリアとしての統一感を創出する。
- 佐久甲州道を始めとした街道筋のまち並み、古い歴史を有する社寺等の歴史・文化的資源を良好に保全・活用を進める
- 河川アクティビティや湖畔、滝等の水辺、星空等の個性の異なる地域資源を巡る楽しみを育成。
- 高原や地形的特徴と野菜栽培の豊かさはエリア共通の景観の基盤として保全・育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- エリア南部から八ヶ岳を望む眺望景観（例：平沢峠）
- 県境の山頂から八ヶ岳、浅間山、北アルプス、群馬県の山並みや富士山を望む眺望景観（例：十石峠等）
- 千曲川平地部より望む八ヶ岳や浅間山を望む眺望景観（例：栄橋）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:特徴的な気候と千曲川流域に広がる田園地域における広域景観の育成

- 山麓の樹林や高原農地等を基調とした景観の誘導
- 八ヶ岳や浅間山を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、眺望支障物の撤去、夜景等の保全
- 大規模建築物・工作物（太陽光発電施設・電力施設の鉄塔）等の誘導

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:八ヶ岳や千曲川と並走する南北に延びる景観軸の景観育成
（千曲川、国道141号、JR小海線、中部横断自動車道等）

- JR小海線や中部横断自動車道におけるシークエンス景観の育成
- 河川（八千穂地区かわまちづくり、道の駅）、河川沿いの遊歩道から望む景観の育成
- 中央横断自動車整備に際しての道路施設デザインの景観配慮
- 中央横断自動車道の全線開通に向けた沿道における屋外広告物の規制誘導の検討

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 身近な生活環境や歴史・文化等の地域固有の景観の保全・創造に対して、住民協定の締結や活動の支援、担い手の育成等に取り組む
- 住民やまちづくり団体と連携した歴史文化的資源や河川・水辺、自然環境の保全活動

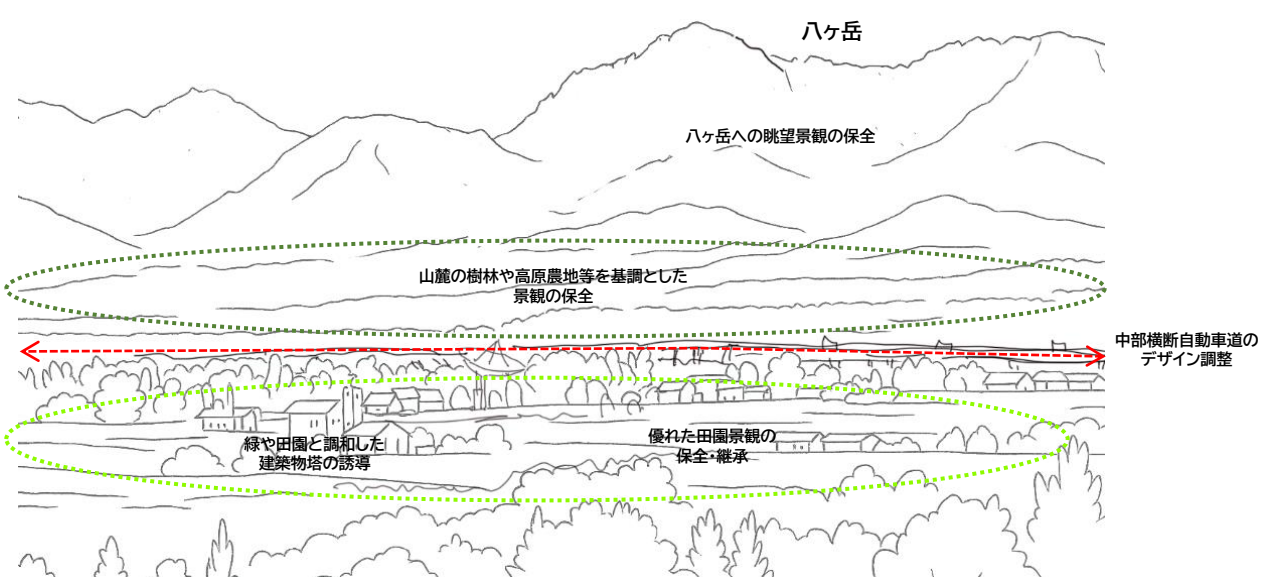
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 佐久甲州道沿いに残る歴史的資源を活用した広域ネットワークの形成
→小海線八千穂駅～八千穂駅周辺の酒蔵を中心とした歴史的なまち並みの保全や活用
- 特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討
→高原で栽培される野菜等のエリア統一のブランディング
- 星空を活かした夜間の景観づくり
→天体観測等の星空の活用や夜間照明の誘導
- エリアの地形や自然的景観を改変する行為の適切な誘導
→大規模な土地利用転換や太陽光発電施設の立地調整等

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



上田広域景観エリアの景観育成方針

上田市、長和町、青木村、坂城町

1. 上田広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 県の東部、千曲川中流部に位置し、北は菅平高原、南は美ヶ原高原等の2,000m級の山々に囲まれている。中央に上田盆地・塩田平が開け、千曲川が地域を二分する形で東西に流れている。
- 盆地に形成された市街地と里山、低山等が近接しており、太郎山や独鈷山、葛尾山（葛尾城跡）、青木三山等、遠足や校歌等子どもの頃から親しみ、地元で愛される身近な山が多く存在する。
- 里山や高原、高速道路PA等の高台からは、上田盆地（千曲川、田園、市街地）と山並み（菅平高原、浅間山、蓼科山、烏帽子岳等）を望むほか、浅間山、蓼科山への眺望は、幹線道路の移動中等日常生活の中でも親しまれる。

○道路・交通(交通景観軸)

- 盆地を中心にJR北陸新幹線（上田駅）、鉄道各線、上信越自動車道、国道18号等広域的な交通網が形成され、首都圏、北陸圏との近接性が高く、長野・松本・諏訪・佐久等を結ぶ、県内交通の要衝でもある。

○河川・水辺(河川景観軸)

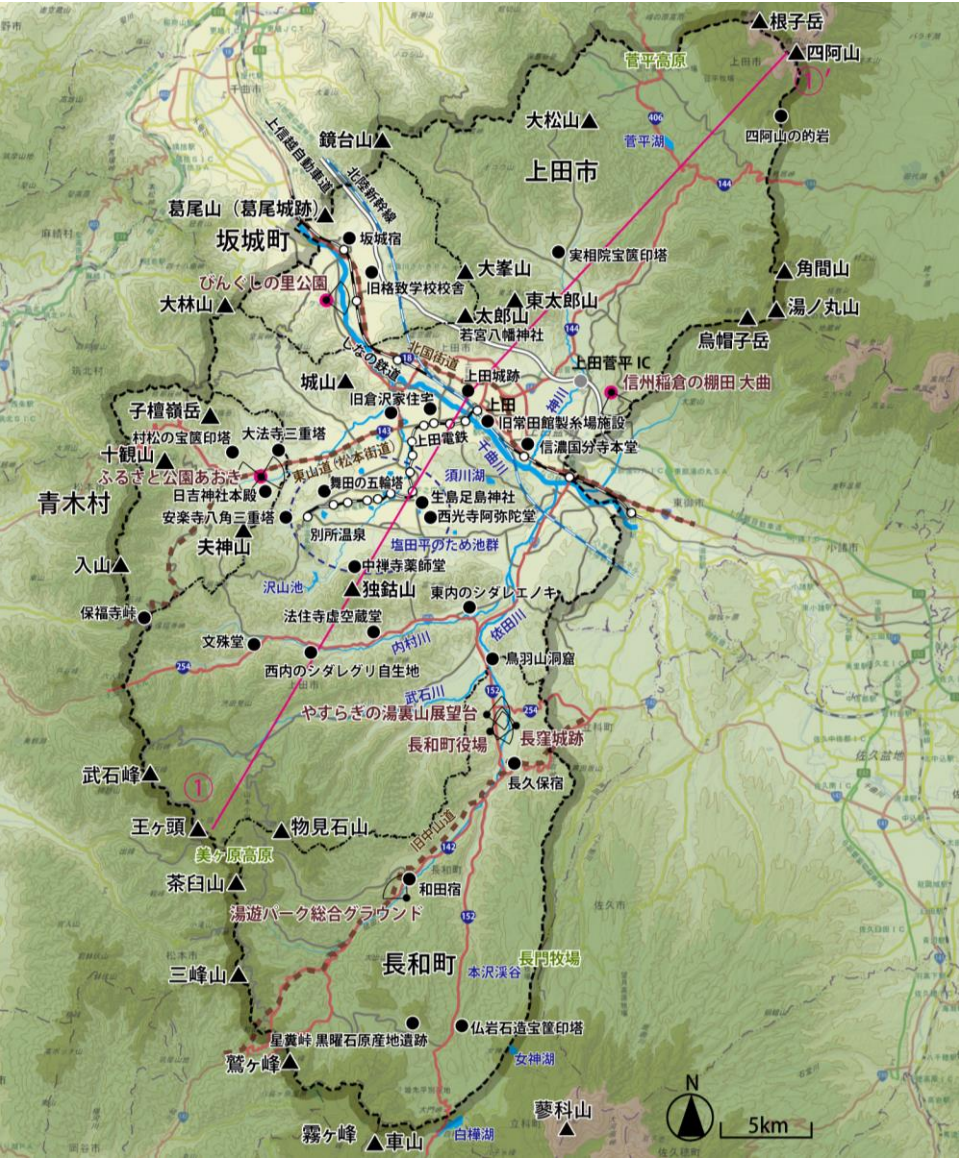
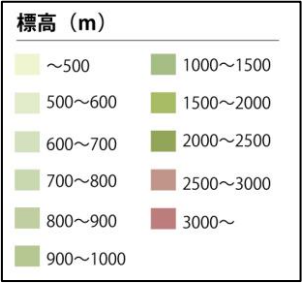
- 中央部に東西に流れる千曲川は、依田川、神川、内村川等の大小の支流が合流している。依田川等の支流沿いには溪谷や滝等の景勝地が多く存在するほか、河岸段丘が形成する緑地帯が市街地の中に見られる。
- 降水量の少なさから、塩田平を中心に多くのため池があり、ため池や水にまつわる民話や伝承が数多く残る。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

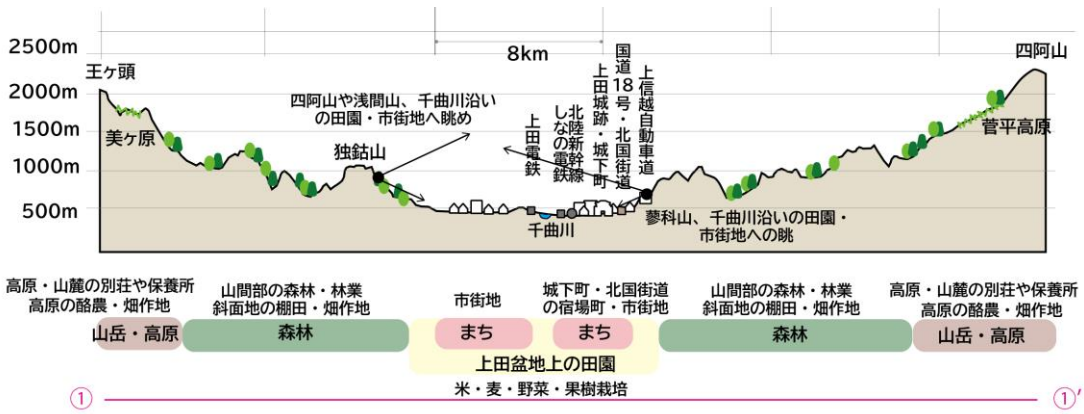
- 上田城と城下町、国宝の安楽寺八角三重塔や大法寺三重塔、別所温泉や鹿教湯温泉、飛鳥時代に開湯した田沢温泉・沓掛温泉、旧街道沿いの宿場町等の歴史的な資源、まち並みを有している。
- 古くは飛鳥時代から京都～東北を結ぶ東山道の拠点として栄えた交通の要衝であり、北国街道をはじめ、旧中山道、松本街道等の街道筋が整備され、東山道浦野駅(うらののうまや)・日理駅(わたりのうまや)、北国街道上田宿・坂城宿、旧中山道長久保宿・和田宿等の宿場町が形成された。また、北国街道沿いには蕨蔵や蚕室造りの民家等蚕都の面影を伝える歴史的まち並みも残されている。
- 上田市では信州上田・塩田平の歴史・文化財が、長和町では黒曜石原産地遺跡等が日本遺産に認定されているほか、青木村の古くは飛鳥時代に由来する歴史等、民話や伝承とともに継承されてきた奥深い歴史文化を有するエリアでもある。

○産業の景観

- 盆地の市街地縁辺にはまとまった田園が広がる一方、斜面を活かした棚田や畑作地等、地形を生かした農業が展開されている。晴天率の高い気候条件と標高差を生かした高原野菜やぶどうの産地であり、カラマツを主体とした林業・木材産業も活発である。
- 菅平高原・湯の丸高原等の自然、上田城跡、宿場町等の歴史文化的資源、別所温泉等の観光資源がコンパクトに集積している。高原エリアでは別荘地やスキー場等が形成されている。



断面図 ①-①'



大切にしたい特徴

上田盆地から望む浅間山、蓼科山等の山並み／高台や山腹から望む上田盆地と山並み／広域交通軸である国道や鉄道からの車窓の景観／千曲川沿いの市街地、河岸段丘／上田城跡と街道沿いに形成された宿場町、蚕都の面影を伝えるまち並み、歴史的資源／歴史ある温泉地／上田盆地や山腹の田園や果樹の栽培風景／菅平高原や美ヶ原高原等四季を通じてレクリエーションやスポーツ合宿で親しまれる自然

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・上田盆地(田園、市街地)や周囲の山々
- ・千曲川
- ・国道や生活道路から見える山並み（四阿山、浅間山、蓼科山、烏帽子岳等）
- ・鉄道(しなの鉄道)



上田城跡(上田市)



塩田平のため池群(上田市)



しなの鉄道と市街地(産業団地)、田園が隣接する風景(坂城町)



和田宿のまち並み(長和町)



国道142号(和田小下歩道橋)からの浅間連山の眺め(長和町)



夫神山と田園・集落の眺め(青木村)

2. 上田広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ・ 上田盆地・塩田平を中心に形成されてきた、歴史・文化、まち、田園等の営みを保全・育成する。
- ・ 各地で地元 に愛されている景観をエリア内外に発信し、磨き上げるとともに、サイクリング、交通軸（鉄道や国道等）等、広域ネットワークにおける取組とも連携し、エリアを巡る楽しみを育てる。
- ・ 民話や伝承とともに継承されてきた歴史・文化（県内交通の要衝としての街道と宿場町や道標、気候風土と深く結びついた塩田平のため池等）を良好に保全・育成し、次の世代に継承する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 低山や丘陵等の高台から上田盆地を望む眺め（例：びんぐしの里公園、ふるさと公園あおき、信州稲倉の棚田大曲、高速道路PA）
- ・ 身近な低山やシンボリックな山並みへの眺め（例：上田盆地、塩田平、国道18号、国道152号）
- ・ 千曲川沿いの橋梁、公園、サイクリングロード等河川沿いから盆地と山並みを望む眺め（例：上田電鉄千曲川橋梁、上田大橋、一般県道上田千曲長野自転車道）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:千曲川の扇状地(上田盆地、塩田平、坂城盆地周辺)

- ・ 盆地や平を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、夜景等特徴的な眺望景観の保全
- ・ 固有の歴史や田園景観の保全・育成（建築物・工作物等の誘導、農産業とも連携した景観の保全）
- ・ 街道筋や千曲川、サイクリングロード、広域交通等、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導（エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備、公共事業における質の高い景観形成）

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:国道18号、国道142号、国道143号、国道152号、高速道路(上信越道)、新幹線等

- ・ 特に眺望の美しい区間や眺望スポットの整備、前景となる田園景観の保全・育成
- ・ 建築物や屋外広告物のルールづくり、統一サインの整備
- ・ 景観軸として公共施設の質の向上（景観重要公共施設、デザイン協議等）
- ・ 巡りを促すハード・ソフトの取組を展開
- ・ 高速道路や新幹線の沿道・沿線における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

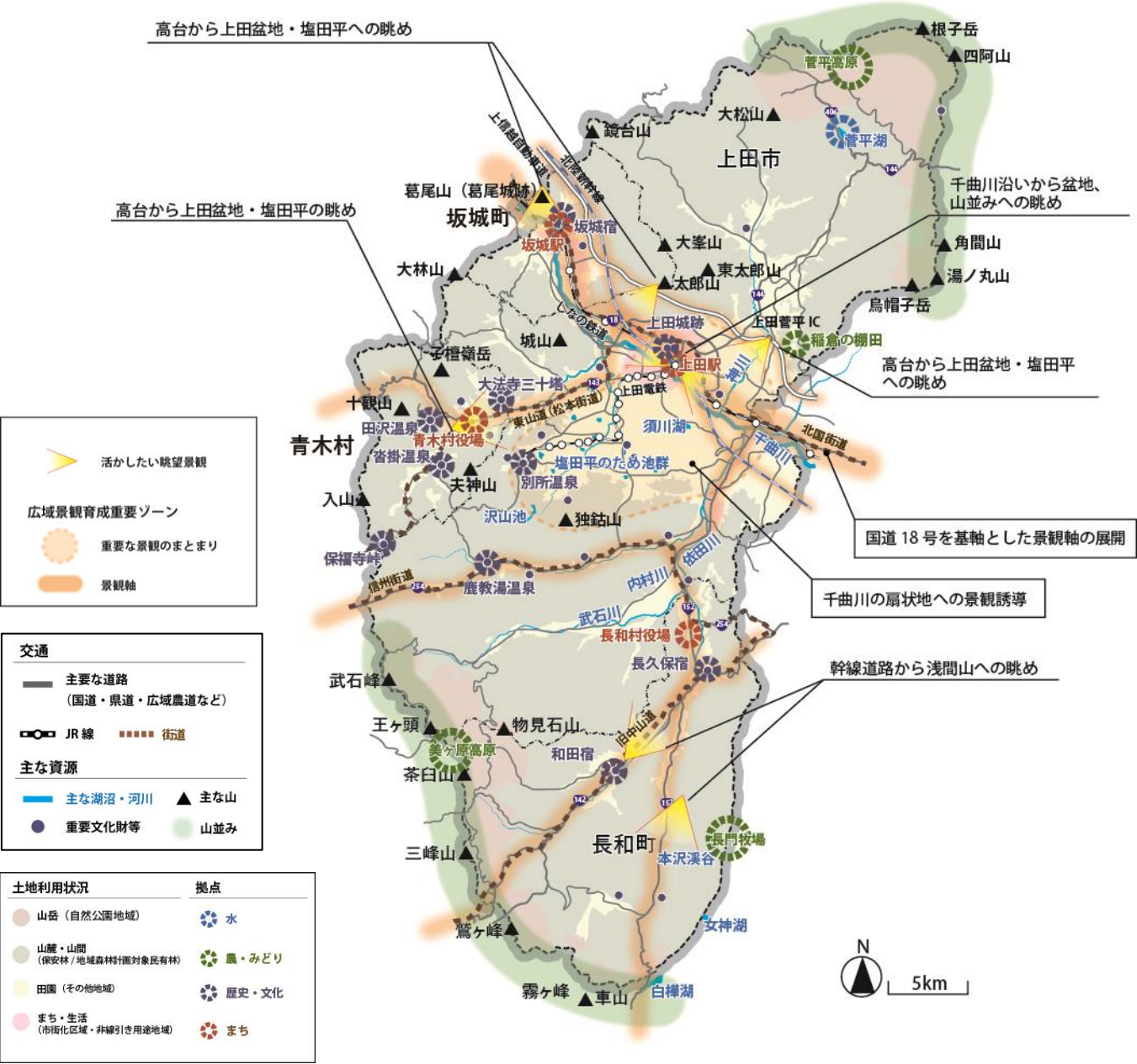
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 地域の大切な生活道路や商店街、高速道路のインター周辺や道の駅等の身近な拠点周辺の景観誘導、歴史文化等地域固有の景観の保全・創造に使われてきた住民協定活動の支援、担い手育成
- ・ 住民や団体と連携した河川・水辺、自然環境の保全（地域や企業と連携したクリーン活動、身近な低山の登山道や案内サイン整備等）、歴史・文化的資源を巡る取組（団体や大学等と連携したマップやルート作成）

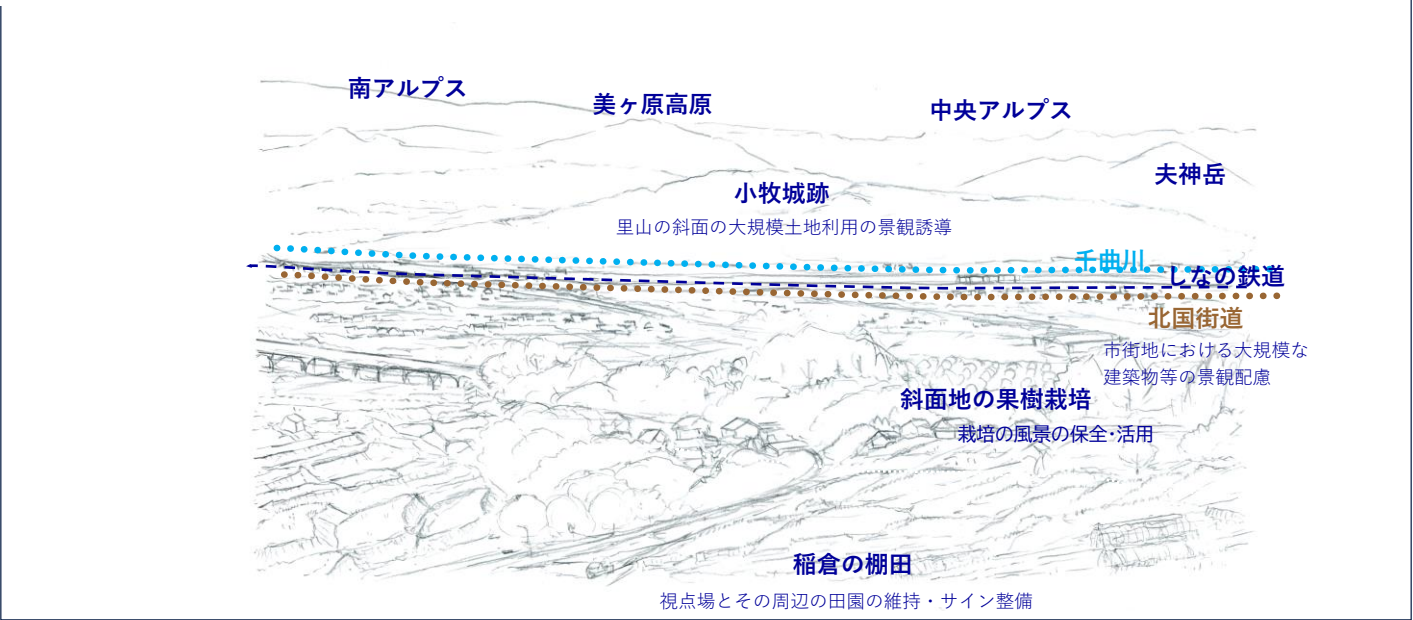
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- ・ 地元団体や民間企業、大学と連携した周遊ルートづくりやガイドツアー、特産物と景観を結びつけるエリア振興策（ワイン用ブドウとワイナリー等）の検討
- ・ 見るだけでなく、目に見えない伝承や民話、食等の五感、移動やアクティビティとも一体となった景観体験の構築
- ・ 千曲川沿いの広域周遊ルートづくり（一般県道上田千曲長野自転車道）、サイクルトレイン（しなの鉄道）、千曲川ワインバレー等、景観育成との親和性の高い既存の取組との連携

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



諏訪広域景観エリアの景観育成方針

岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村

1. 諏訪広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- ハケ岳（赤岳2,899m）の西南山麓に位置し、蓼科山の山並みと南アルプス北端を望むことができる。
- 「ふるさとの見える（丘）」として、諏訪湖周及びその高台、白樺湖展望台等の山頂付近、見晴らしの良い公園が指定され、諏訪湖周、ハケ岳、南アルプス及び富士山の山・山並みが視対象である。

○道路・交通(交通景観軸)

- J R 中央線、中央及び長野自動車道及び国道20号がエリアを縦断し、松本／伊那／山梨県の各方面を結んでいる。
- 諏訪湖スマートインターチェンジの開通により、本エリアへのアクセス性が向上。

○河川・水辺(河川景観軸)

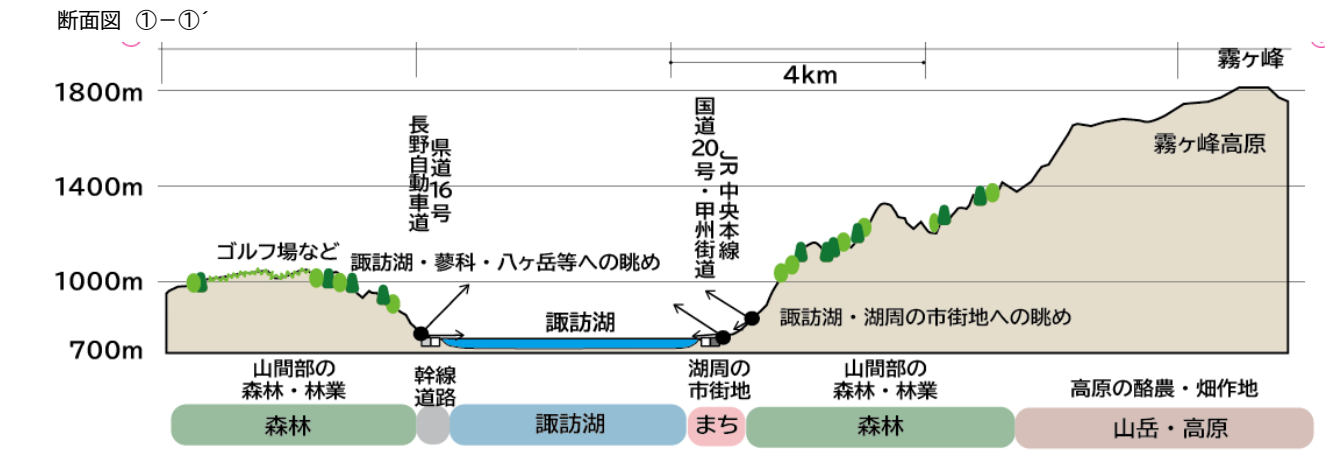
- ハケ岳連峰の赤岳を源とする天竜川は、諏訪湖に集められ、西岸の釜口水門から天竜川として流出する。
- 南アルプス北部の鋸岳を源とする釜無川は、富士見町で立場川と合流し、山梨方面に流下する。
- 諏訪湖、白樺湖、蓼科湖等の湖沼や大泉等の湧水群がエリア全体に見られる。諏訪湖周は、温泉街として賑わう等、水資源が豊富なエリアであり、観光・交流の貴重な景観資源となっている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- ハケ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山があり、山梨県内を含む複数市町村が日本遺産（星降る中部高地の縄文世界）として認定されている。
- 江戸五街道の1つである甲州街道が、江戸から甲府を経由し、下諏訪まで整備された。また、中山道がエリア北部を通っており、下諏訪町には本陣が整備された。これら旧街道は、歴史的建造物や石碑等が名残をとどめている。
- 最も古い神社の一つとされる諏訪大社（上社前宮、本宮、下社春宮と秋宮の四社）が諏訪湖を囲むようにあり、その門前も含め、歴史的な景観を形成している。

○産業の景観

- ハケ岳山麓には広大な田園景観が広がっており、社寺林や段丘流林、防風林（茅野市の風除けの松）と相まって、個性的な景観を生み出している。
- 本エリアは信州屈指の工業地域でもあり、明治期には岡谷を中心に製糸業が発達、戦後は精密機械工業が発展した。豊富な水と澄んだ空気は精密機械に適しており、「東洋のスイス」として名を馳せた。



大切にしたい特徴

ハケ岳や富士山、蓼科等への眺め／ハケ岳山麓に広がる田園景観(主に高原野菜)／諏訪湖・白樺湖の湖面・水辺や湧水／諏訪湖及び周囲のアクティビティ(釣りやサイクリング等)やイベント(花火等)、美術館等／歴史のシンボルである諏訪大社とその周辺の歴史的景観／中山道、甲州街道やハケ岳エコーライン、ビーナスライン等の骨格軸

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・富士山、ハケ岳(山、山麓)
- ・諏訪湖、白樺湖、天竜川(湖面)
- ・諏訪湖を囲む山々の重なりと既成市街地
- ・中山道、甲州街道
- ・鉄道(中央線)



シルクファクトおかや(岡谷市)



立石公園から諏訪湖への眺め(諏訪市)



風除けの松(茅野市)



下諏訪宿本陣岩波家(下諏訪町)



里山から富士山への眺め(富士見町)



ハケ岳山麓の田園(原村)

2. 諏訪広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ・田園や市街地を取り囲む山並みを守り、諏訪湖・白樺湖等の水資源、八ヶ岳山麓に広がる田園風景、富士山や八ヶ岳への眺望、諏訪大社や歴史的資源を活かし、地域住民の暮らしを豊かにする
- ・観光や産業と連携し、エリアの魅力と価値を高め、関係人口や移住者を増やし、地域の活性化を目指す

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・諏訪湖及びその周辺市街地、後背の山並みを望む眺望景観（例：立石公園、諏訪湖サービスエリア）
- ・諏訪湖畔より富士山を望む眺望景観（例：赤砂崎公園、みずべ公園）
- ・ハヶ岳山麓からハヶ岳を望む眺望景観（例：風除け公園、柏木農村広場）
- ・ハヶ岳山麓から富士山や南アルプスを望む景観（例：立沢大規模水田地帯）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

②-1 八ヶ岳山麓重点地域における広域景観の育成

●対象地域:八ヶ岳山麓重点地域(当初指定地区)をベースとした周辺地域

- ・長野県と茅野市の景観計画に定める景観育成基準の統一したルールづくり（基準や取扱い等の調整）
- ・八ヶ岳裾野に広がる自然豊かな景観資源と調和した屋外広告物の設置
（八ヶ岳西麓地域の屋外広告物に関する基本計画書、長野県屋外広告物条例）

②-2 周辺の山並みと調和した諏訪湖周の広域景観の育成

●対象地域：諏訪湖及び周辺の市街地、周囲の山並み

- ・諏訪湖周の一体感ある広域景観の育成に向けた建築物等の景観に関するルールづくり（重点地域検討）
- ・サイクリングロード整備を契機とした案内サインの統一
- ・湖周の道路や護岸、街灯等の公共施設等デザイン調整や仕様基準の検討
- ・眺望点から富士山や湖畔の建築物への眺望景観の確保
- ・湖周周辺の歴史的・文化的資源を活用した景観育成の推進

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象路線：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川・鉄道、ハケ岳山麓重点地域内の主要な道路（甲州街道(国道20号)、JR中央線、中山道、ハケ岳エコーライン、国道299号(メルヘン街道)、ビーナスライン、高速自動車道(中央道・長野道、)、国道20号バイパス、天竜川等)

- ・沿道や車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・街道筋に残る歴史的な資源の保全・活用等
- ・国道20号バイパス整備に際しての道路施設デザインや沿道景観に対する配慮
- ・高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・諏訪大社四社の参道や沿道のまち並みの修景と住民協定制度を活用した景観の維持向上
- ・御柱祭の舞台（曳行路、木落とし公園（茅野市）、木落とし坂（下諏訪町）等）周辺の景観育成
- ・主要な道路沿いや商店街の景観育成等、主要な通りやエリアにおける沿道型の景観育成
- ・身近な景観における緑化や花づくり、清掃や美化活動等の住民主体の景観育成の支援

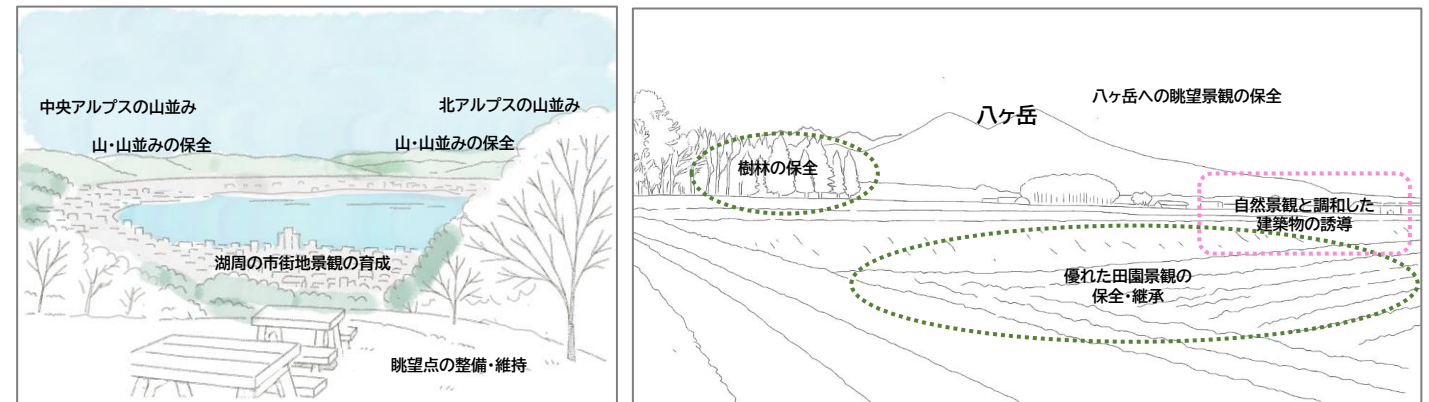
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・甲州街道に点在する歴史的建造物の保全や地場産業（酒造等）の活用
- ・諏訪湖周に広がる製糸工業等の産業遺産や片倉館の再生、歴史的なまち並みの整備、保全
- ・八ヶ岳山麓にみられる坂本養川堰による開墾の歴史や踏まえた米や高原野菜等のストーリーづくり

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



伊那広域景観エリアの景観育成方針

伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村

1. 伊那広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴

- 中央アルプス、南アルプスの3000m級の山並みに挟まれ、南北に流れる天竜川沿いの伊那盆地（伊那谷、伊那平）に市街地・集落地を形成している。

○道路・交通(交通景観軸)

- 伊那谷にはJR飯田線、国道153号、中央自動車道が通り、エリアの主要な交通軸を形成している。
- 伊那市街で交差する国道361号は木曽方面、秋葉街道と並走する国道152号は茅野・大鹿方面のヘアアクセス路線となっている。
- 信州伊那アルプス街道や信州みのわ花街道（日本風景街道）、伊那西部広域農道沿いには、美しい花々や山並み、田園風景が広がっている。

○河川・水辺(河川景観軸)

- 伊那谷の主要な河川である天竜川には、国内最大規模の河岸段丘、田切地形が広がり、独特の景観を作り出している。
- 天竜川の支流である三峰川上流に高遠湖・美和湖やもみじ湖等美しい景観を作り出している。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 戦国時代にかけて秋葉街道と杖突街道の結節点に高遠城とその城下町が形成された。現在の城址公園は、タカトオコヒガンザクラが群生する桜の名所となっている。
- 江戸時代に伊那街道（三州街道）が開通すると商人や庶民の往来が増え、伊那郡宿では本陣や問屋等のまち並みを形成したほか、中尾歌舞伎、古田人形芝居、羽広獅子舞等の伝統芸能が大成した。

○産業の景観

- 天竜川沿いの肥沃な平野部を利用した県下有数の米どころである他、後背地に広がる平坦な河岸段丘部では、複合経営として果樹や野菜、花卉栽培も盛んである。
- 12月には伝統的なさざむし漁が解禁され、天竜川での冬の風物詩となっている。



2. 伊那広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- 中央アルプス・南アルプスと山々に抱かれた雄大なへ伊那谷の眺め、地形を縁取る天竜川の河岸段丘や田切地形、平野と段丘上に広がる田園風景、三州街道や高遠城下町、受け継がれてきた伝統芸能等の歴史・文化的資源の維持・保全・活用を図る。
- 住民協定等の景観育成によって地域住民の暮らしを豊かにするとともに、関係人口や移住・定住者を増やし、景観育成に向けた積極的な支援を行っていく。
- 既往団体と連携し、観光や農業等の視点も踏まえながら広域景観としての魅力を高め、エリアの価値向上や地域の活性化を目指す。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 山々や高台から伊那谷を望む景観（大城山、陣馬形の森公園等）
- 伊那谷の田園風景と遠景の中央・南アルプスの山並みを望む景観（みはらしファーム、駒ヶ根市ふるさとの丘等）
- 交通景観軸から連続的に望むシークエンス景観（信州伊那アルプス街道、伊那西部広域農道沿い等）
- 歴史的まち並みと背後の山並みが一体となった眺望景観（高遠城下町等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:田園の拡がりと周囲の山並みによる伊那谷らしい原風景の景観保全

- 伊那谷を望む視点場や滞留空間の整備、山並みや田園風景と調和した屋外広告物のルールづくり（市町村独自の屋外広告物条例との連携）
- 一体感ある広域景観の保全育成に向けた建築物・工作物の誘導
- 稲作・野菜・果樹等多様な農業景観、桜・花桃・赤そば等花の景観、街道・城下町に残る歴史的な資源の保全・活用等

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:伊那谷の山並みや天竜川と一体となった南北を貫く景観軸

- (天竜川、JR飯田線、国道153号、三州街道、風景街道(信州伊那アルプス街道、信州みのわ花街道)伊那中部広域農道、高速道路(中央道)とその周辺)
- リニア中央新幹線開通を見据えた広域交通軸（JR飯田線、国道153号、三州街道、天竜川）における一体感あるシークエンス景観の育成
- NPO法人や民間事業者と連携した沿道の景観育成の推進（統一感のある案内サインの普及促進等）
- 飯田広域景観エリアと連携・連続した広域的案内サイン整備の推進
- 高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

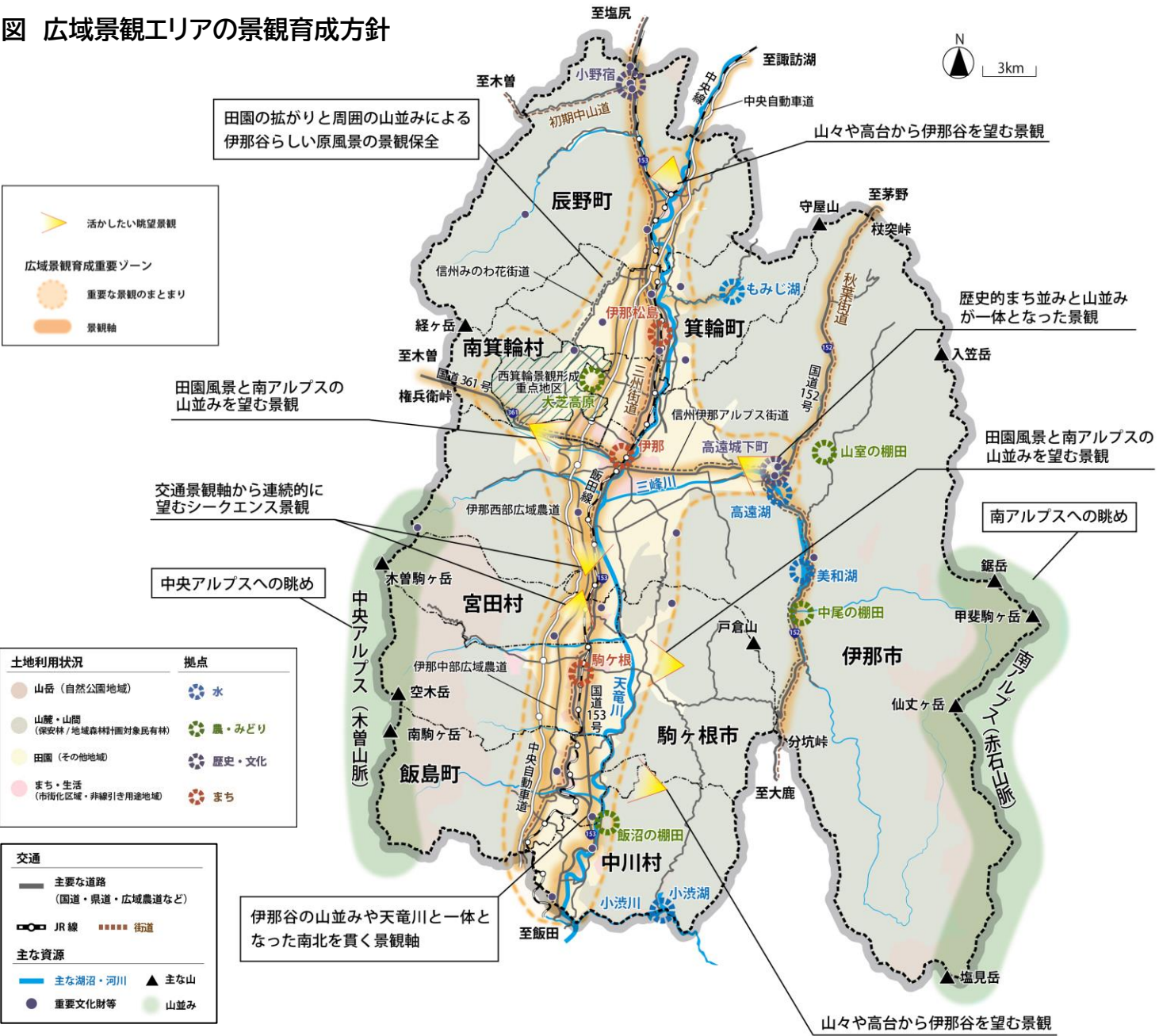
① 住民を主体した景観育成の取組による環境の維持向上

- 住民協定等を活用した住民主体による身近な景観づくりの支援と担い手の育成
- 移住定住支援を活用した空き家・耕作放棄地の発生の抑制と田園・住環境の維持向上

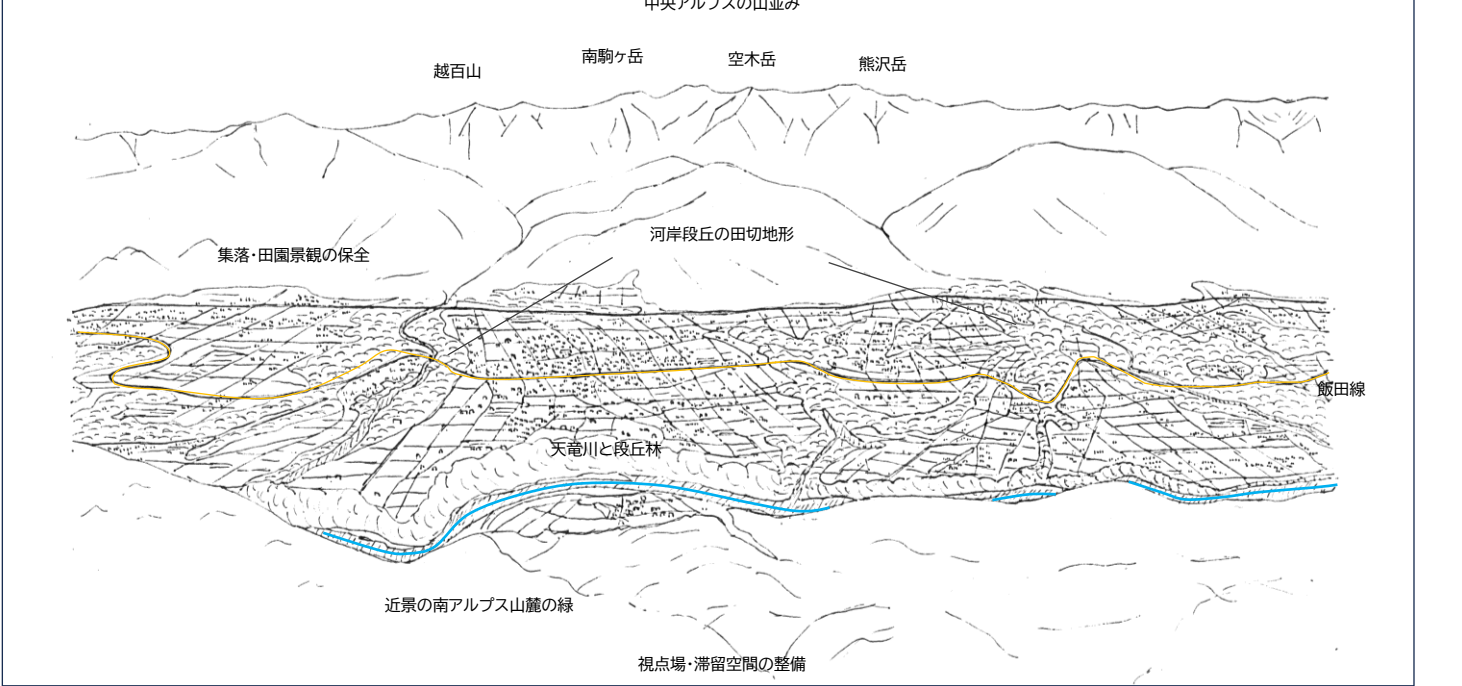
② 歴史・文化的資源や農業等を活用したブランディング

- 観光部局と民間の活動団体や、農政部局と連携した観光・農業の振興とブランディング化
- 高遠城下町や三州街道、秋葉街道等歴史的資源の整備保全、伝統行事・芸能の景観等地域に根付く固有の文化を継承する担い手の育成・支援
- 風景街道や文化的な保存団体との連携による歴史・文化的景観の保全・育成

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



飯田広域景観エリアの景観育成方針

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下篠村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

1. 飯田広域景観エリアの景観特性

○地形的な特徴と眺望

- 中央・南アルプス及び伊那山地に囲まれた伊那谷と天竜川、その周囲に市街地・集落地を形成し、伊那谷北部は平野部と河岸段丘、天竜川支流による谷を縁どる緑の連なり（段丘林）は田園風景の広がりとともに伊那谷を特徴づけている。
- 南部は谷が狭まり、南西部の矢作川源流域とともに山深さを感じる景観となる。
- 「ふるさとの見える（丘）」として段丘上の見晴らしの良い公園やレクリエーション施設が指定され、平野部の田園・市街地と背景の山並みの他、果樹や棚田の風景等が視対象となっている。この他に、南部の高台等からアルプスの山並みや天竜川への眺め、美しい星空が特徴的である。

○道路・交通(交通景観軸)

- エリア中央を南北に通るJR飯田線、国道151号・153号が主要な交通軸を形成する他、中央自動車道がエリア西部を通る。
- 飯田市街地にリニア長野県駅（仮称）開業を控えている他、三遠南信自動車道の整備が進められている。

○河川・水辺(河川景観軸)

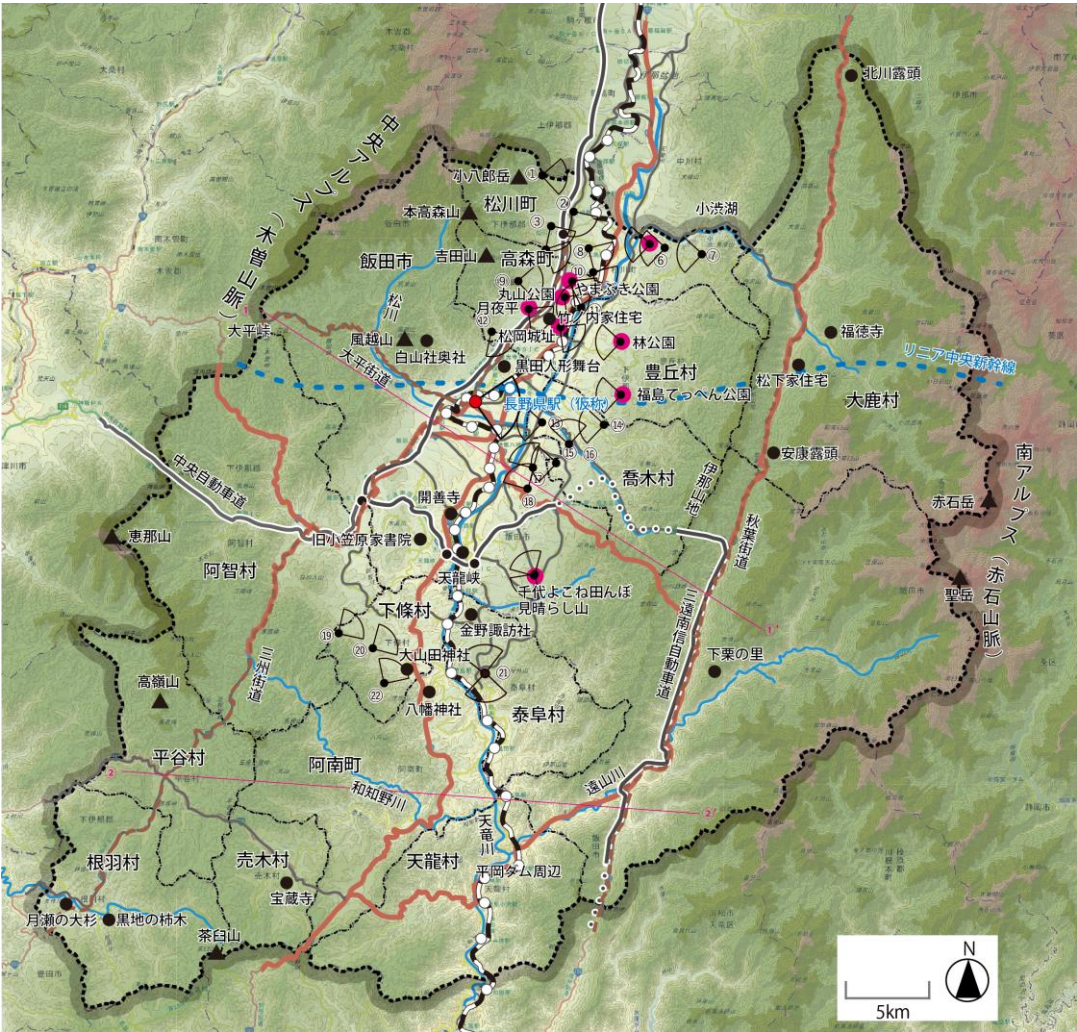
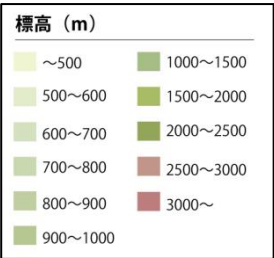
- 天竜川は、変化にとんだ河川景観を有し、国指定名勝・天龍峡や、平岡ダム、羽衣崎等の景勝地、遊歩道、川下り舟、カヌー等水辺のレクリエーションの場を提供し、エリア内外の人々に親しまれている。

○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

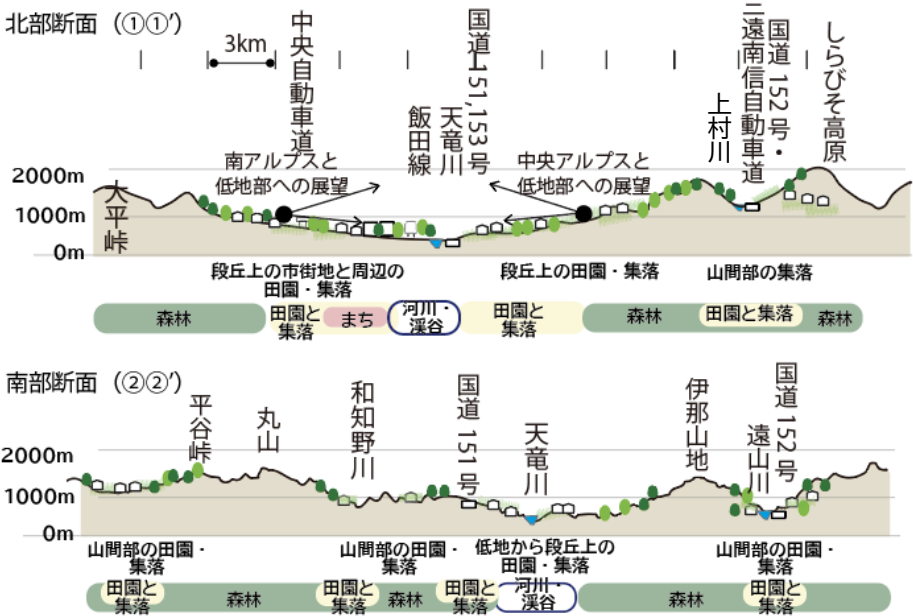
- 飯田市街地には大火でまち並みは失われたものの、城下町の面影を残す碁盤状の町割が見られる。
- 秋葉街道（国道151号）や三州街道（国道153号）、大平街道等の旧道があり、旧宿場町が分布している。
- 山間にも集落が分布し、秘境といわれる下栗の里等山の生活文化を感じる景観が見られる。
- 民俗芸能の宝庫として大鹿歌舞伎、下黒田の人形芝居等があり、神社境内等に設えられた舞台と共に大切に保存されている。

○産業の景観

- 平野部の水田、傾斜地の棚田、水路、水脈、竜東・竜西一貫水路、段丘上の果樹（市田柿等）や花き栽培、山地部の牧場等多彩な農の風景が見られる。
- 南部を中心として豊かな森林が広がり、県認証の根羽スギ・ヒノキ等の木材及び加工品を産出している。



- 県指定眺望点番号別対照地点名
- ① 青木ヶ沢展望台
 - ② 上片桐バイパス
 - ③ 桑園横断線
 - ④ 増野中央線
 - ⑤ 城山公園
 - ⑥ 入倉堤
 - ⑦ 朝陽丘
 - ⑧ 城山公園
 - ⑨ アグリ交流センター
 - ⑩ 古町八幡神社
 - ⑪ 天竜川高森かわまちづくり計画地
 - ⑫ 御代の館
 - ⑬ 縄文の丘フルーツパーク
 - ⑭ 茶臼山公園
 - ⑮ 九十九公園
 - ⑯ 城山公園
 - ⑰ 常信院
 - ⑱ ひさかた和紙の里
 - ⑲ 極楽峠パノラマパーク
 - ⑳ そば畑
 - ㉑ あいパークやすおか
 - ㉒ 新井展望公園



大切にしたい特徴

伊那谷から連なる中央・南アルプス、天竜川を軸とした広い伊那谷の眺め／段丘林や田切に縁取られた段状の生活・農業地のまとまり／中央構造線等複雑な地形が織りなす多彩な自然と農林業の景観と食や生活文化／サイクリングを軸としたエリアトレイルで体験できる景観／旧街道や山間部等に息づく集落と伝統芸能の景観

主な視対象(広域的な景観要素)

- 伊那谷を挟む中央アルプス、南アルプス、伊那山地の山並み
- 風越山等の自然豊かで雄大な山並み
- 伊那谷の風景を特徴づけている段丘林の連なり
- 樹林に縁取られた美しい田園風景
- 天龍峡等河川の景勝地



田園・市街地と山並みの景観（豊丘村、高森町、飯田市付近）



飯田市街地と飯田城、風越山



天龍峡（飯田市）



松源寺の柿すだれ（高森町）



下栗の里（飯田市）



大鹿歌舞伎（大鹿村）



泰阜の田園風景（泰阜村）



横旗の棚田（根羽村）

2. 飯田広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- 伊那谷から連なる中央・南アルプス、天竜川を軸とした広い伊那谷の眺めと、段丘林や田切に縁取られた段状の生活・農業地のまとまり、中央構造線等複雑な地形が織りなす多彩な自然と農林業の景観を一体的に守り、食や生活文化、レクリエーション、旧街道や山間部等に息づく集落と伝統芸能の景観の育成。
- 飯田市に建設中のリニア新駅は、新たな都市的な拠点として駅周辺やアクセス道路の良質なまち並みの形成や伊那谷・アルプスへの眺めを確保する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 南・中央アルプスと共に下伊那の広がりを見晴らす東西の眺望景観（例：林公園、月夜平等）
- リニア長野県駅（仮称）から北東～南東方向の山並みへの眺望景観（例：リニア長野県駅（仮称）駅舎等）
- 南部の高台からアルプスや天竜川への眺望景観（例：新井展望公園等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:リニア新駅を核とした広域景観育成の推進

- 新駅舎や駅前広場を中心に、周囲の山並みと一体となった長野県の玄関口を象徴する空間づくり（信州の玄関口としてふさわしい施設・空間デザインの検討）
- リニア長野県駅（仮称）周辺地域への連続性や調和に配慮した景観誘導として、建築物・工作物の景観に関するルールづくりの検討による広域景観の育成（重点地域の検討等）

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:山並みや天竜川に並走する景観軸に沿った景観育成

（三遠南信自動車道、国道151号・152号・153号、伊那南部広域農道、天竜川、JR飯田線等）

- 遠州街道、三州街道、秋葉街道等原道の歴史にちなむ施設や伝統芸能の場等の景観資源への配慮
- 三遠南信自動車道の全線開通に向けた沿道における屋外広告物の規制誘導の検討
- リニア長野県駅（仮称）から連続する周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

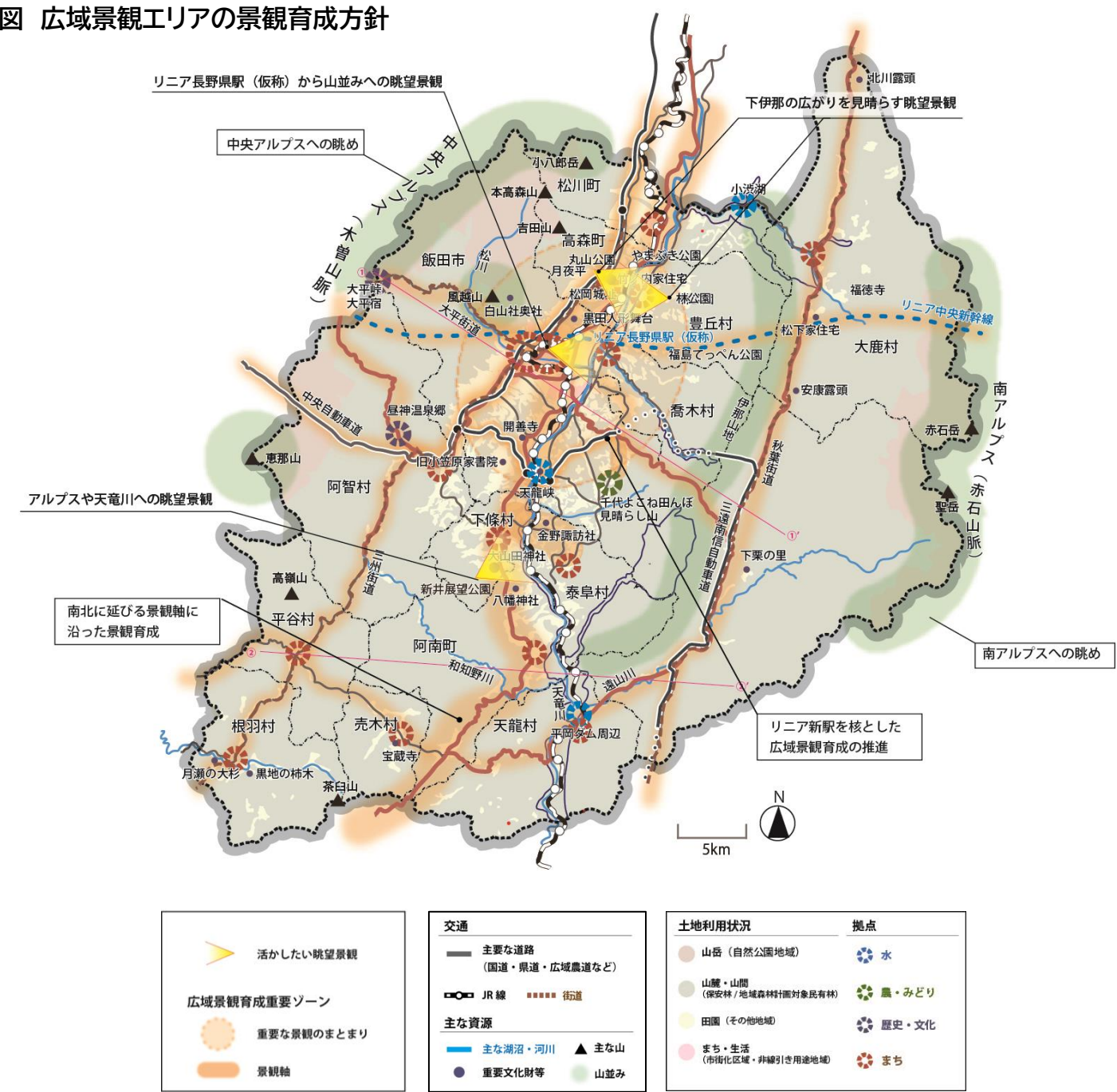
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 地域住民や店舗営業者等で協力して運営してきた既定の住民協定・住民活動の支援及び締結地区拡大の誘導
- 各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり
→エリアの特色ともなっている各地域の伝統芸能のガイド・情報連携やイベント連携等
- 特産物と景観を結びつけるエリア振興策（情報交換や協力体制構築）の検討
→伊那南部広域農道（南信州フルーツライン）等、生産地の特徴を活かした景観育成等
→農の景観が取り巻く眺望点（アルプスビューファームズ部奈等）を活かした地場食材体験の場づくり
- サイクリングによるアクティビティと結びつけた景観まちづくりの検討
→中央構造線サイクリング等の自転車イベントと連携したPR活動の充実
→エリア内のサイクリング関連施設でのデザイン協調や名産販売施設等での連携

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ

